

武雄市

子どもの生活実態調査

集計結果報告書

概要レポート

目次

1. 調査概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象と実施方法	1
(3) 配布・回収状況	2
(4) 設問構成	3

2. 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化

(1) 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化に用いた設問	5
(2) 世帯年収による判別	5
(3) 合意基準による判別	6
(4) 困窮経験による判別	9
(5) 3つの視点からの判別を踏まえた類型化	10

3. 集計結果

(1) 住居形態 (SA)	12
(2) 家族構成 (SA)	13
(3) お子さんの人数 (NA=数量回答)	14
(4) 親の最終学歴 (母親・父親) (SA)	15
(5) 親の就業状況 (母親・父親) (SA)	17
(6) 親の健康状況 (母親・父親) (SA)	19
(7) 受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)	20
(8) 生活・学習習慣の状況 (SA)	21
(9) 習い事等の状況 (SA)	23
(10) 将来の進学見通し (SA)	24
(11) 子どもにとって必要な環境・モノ (SA)	25
(12) お子さんに与えられている環境・モノ (SA)	26
(13) 経済的理由による困窮経験 (SA)	27
(14) 子育てについての心配や悩み事 (MA)	28
(15) 必要と思う支援 (MA)	29
(16) 世帯の年間収入 (SA)	30
(17) 各種手当・援助の受給経験 (SA)	31
(18) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)	32
(19) 【子ども向け】将来の夢の有無 (SA)	33
(20) 【子ども向け】将来の進学希望 (SA)	34
(21) 【子ども向け】持っている物 (SA)	35
(22) 【子ども向け】放課後を一緒に過ごす相手 (SA)	37

(23) 【子ども向け】 放課後を過ごす場所 (SA)	38
(24) 【子ども向け】 食事を一緒にする相手 (SA)	39
(25) 【子ども向け】 平日の時間の過ごし方 (SA)	40
(26) 【子ども向け】 学校生活での楽しみ (SA)	41
(27) 【子ども向け】 日常生活の中で感じていること (SA)	43

1. 調査概要

(1) 調査の目的

少子化や子どもの貧困などの問題が全国的に深刻化・顕在化していく中、本調査は、武雄市に暮らす市民が安心して子どもを育てるために必要となる取組みについて検討するにあたり、子どものいる家庭の生活状況や子どもの様子、子育ての悩みや困りごと等の実態を把握することを目的に実施しました。

(2) 調査の対象と実施方法

調査は、武雄市立の小学校1年生・5年生、中学校2年生の子どもを持つ保護者の方を対象とする“保護者向け調査”に加え、当該の小学校5年生及び中学校2年生の本人を対象とする“子ども向け調査”の2種類です。

調査は、

“保護者向け調査”については、学校・子どもを通じた配布・回収を行い、また、“子ども向け調査”については（自宅等への持ち帰りではなく）学校で配布・実施・回収を行いました（平成28年10～11月実施）。

なお、“保護者向け調査”と“子ども向け調査”の各調査は、いずれも無記名式で実施したため、回収後に両調査票について世帯ごとの結び付けを行う観点から、それぞれの調査票に結び付けのための連番を振りました。連番は、保護者から回収した調査票とその子どもから回収した調査票を結び付けるためのものであり、個人を特定できるものではありません。

(3) 配布・回収状況

配布・回収の状況については次のとおりです。

	保護者向け調査			子ども向け調査		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
小学校1年生	464	429	92.5%			
小学校5年生	454	430	94.7%	454	451	99.3%
中学校2年生	432	365	84.5%	432	412	95.4%
計	1,350	1,224	90.7%	886	863	97.4%

回収された調査票は、“保護者向け調査”が1,224票、“子ども向け調査”が886票でしたが、これらについて世帯ごとの結び付けを行った結果、1,293件（世帯）のデータとして整理しました。

	回収数			
	保護者向けのみ 回収	両調査ともに 回収	子ども向けのみ 回収	計
小学校1年生	429			429
小学校5年生	0	430	21	451
中学校2年生	1	364	48	413
計	430	794	69	1,293

(4) 設問構成

両調査の設問構成は次のとおりです。

【保護者向け調査】

保護者向け調査	小1	小5	中2
回答者と家族について			
お子さんからみた回答者の続柄	問1	問1	問1
お住まいの地区	問2	問2	問2
住居形態	問3	問3	問3
家族の人数と単身赴任の有無	問4	問4	問4
家族構成	問5	問5	問5
お子さんの人数	問6	問6	問6
親の年齢（母親・父親）	問7	問7	問7
親の最終学歴（母親・父親）	問8	問8	問8
親の就業状況（母親・父親）	問9	問9	問9
親の帰宅時間（母親・父親）	問9-1	問9-1	問9-1
親の健康状態（母親・父親）	問10	問10	問10
お子さんについて			
何番目のお子さんか	問11	問11	問11
お子さんの健康状態	問12	問12	問12
受診が必要であるのに受診しなかった経験	問13	問13	問13
受診しなかった理由	問13-1	問13-1	問13-1
むし歯の有無	問14	問14	問14
むし歯の治療中の有無	問14-1	問14-1	問14-1
お子さんの生活・学習習慣について			
生活・学習習慣の状況（10項目）	問15	問15	問15
習い事等の状況	問16	問16	問16
習い事等をしていない理由	問16-1	問16-1	問16-1
将来の進学見通し	問17	問17	問17
進学見通しの理由	問18	問18	問18
子どもを取り巻く環境・モノについて			
子どもにとって必要な環境・モノ（14項目）	問19	問19	問19
お子さんに与えられている環境・モノ（14項目）	問20	問20	問20
経済的理由による困窮経験（6項目）	問21	問21	問21
子育ての悩みや相談について			
子育てについての心配や悩み事	問22	問22	問22
心配や悩み事の相談相手	問23	問23	問23
小学校入学直前の通園状況	問24		
小学校入学の際に困ったことや不安	問25		
小学校入学の際に経済的負担が大きかったもの	問26		
小学校入学の際に経済的負担を感じた時期	問27		
中学校進学にあたり不安なこと		問24	
中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの		問25	
中学校入学の際に困ったことや不安			問24
中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの			問25
中学校入学の際に経済的負担を感じた時期			問26
高校進学にあたり不安なこと			問27
進学のための奨学金制度の認知状況			問28

合意基準

困窮経験

保護者向け調査		小1	小5	中2
各種支援・サービスについて				
各種支援・サービスの利用経験（12項目）		問28	問26	問29
必要と思う支援		問29	問27	問30
世帯の経済的状況について				
世帯の年間収入		問30	問28	問31
各種手当・援助の受給経験（8項目）		問31	問29	問32
現在の生活の経済的ゆとりの程度		問32	問30	問33
子どものころの生活の経済的ゆとりの程度		問33	問31	問34
現在の幸福度		問34	問32	問35

世帯年収

【子ども向け調査票】

子ども向け調査		小1	小5	中2
性別			○	○
将来の夢について				
将来の夢の有無			問1	問1
将来の夢がない理由			問2	問2
将来になりたい職業			問3	問3
将来の進学希望			問4	問4
持っている物について				
持っている物（14項目）			問5	問5
日常生活の状況について				
放課後を一緒に過ごす相手			問6	問6
放課後に過ごす場所			問7	問7
食事を一緒にする相手（5項目）			問8	問8
起床時間・就寝時間			問9	問9
平日の時間の過ごし方（5項目）			問10	問10
悩み事の有無			問11	問11
悩み事を相談できる相手の有無			問12	問12
相談相手			問13	問13
ふだんの会話の状況（6項目）			問14	問14
学校生活での楽しみ（9項目）			問15	問15
日常生活の中で感じていることについて				
日常生活の中で感じていること（自己肯定感10項目）			問16	問16

2. 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化

(1) 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化に用いた設問

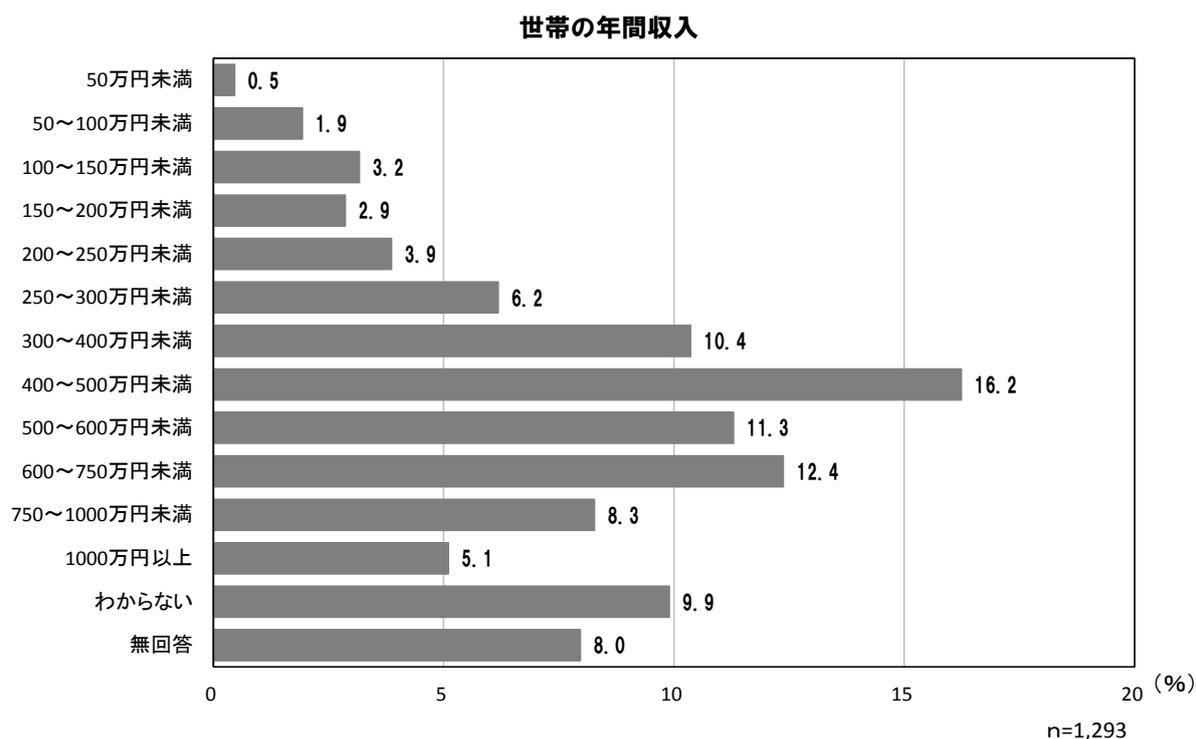
本調査の集計・分析にあたっては、子どもの貧困問題について武雄市における実態を把握するため、アンケート結果に基づき、こどもの養育の“困難度の高さ”という視点から世帯の判別・類型化を行いました。

“困難度の高さ”について、本調査では“世帯年収”“合意基準”“困窮経験”の3つの視点から捉えることとし、具体的には次の4つの設問への回答データに基づく判別・類型化を行いました。

判定	判別・類型化に用いた設問
世帯年収	世帯の年間収入
合意基準	子どもにとって必要な環境・モノ（14項目）
	お子さんに与えられている環境・モノ（14項目）
困窮経験	経済的理由による困窮経験（6項目）

(2) 世帯年収による判別

世帯の年間収入についてみると、“400～500万未満”が最も多く16.2%となっており、これを含む世帯年収300～750万未満の世帯が全体の50.3%を占めています。



一方で、“200～250 万未満” 3.9%を含む世帯年収 250 万未満の世帯が 12.4%あり、これらの世帯については世帯年収の視点から“困難度が高い”と判別することにしました。

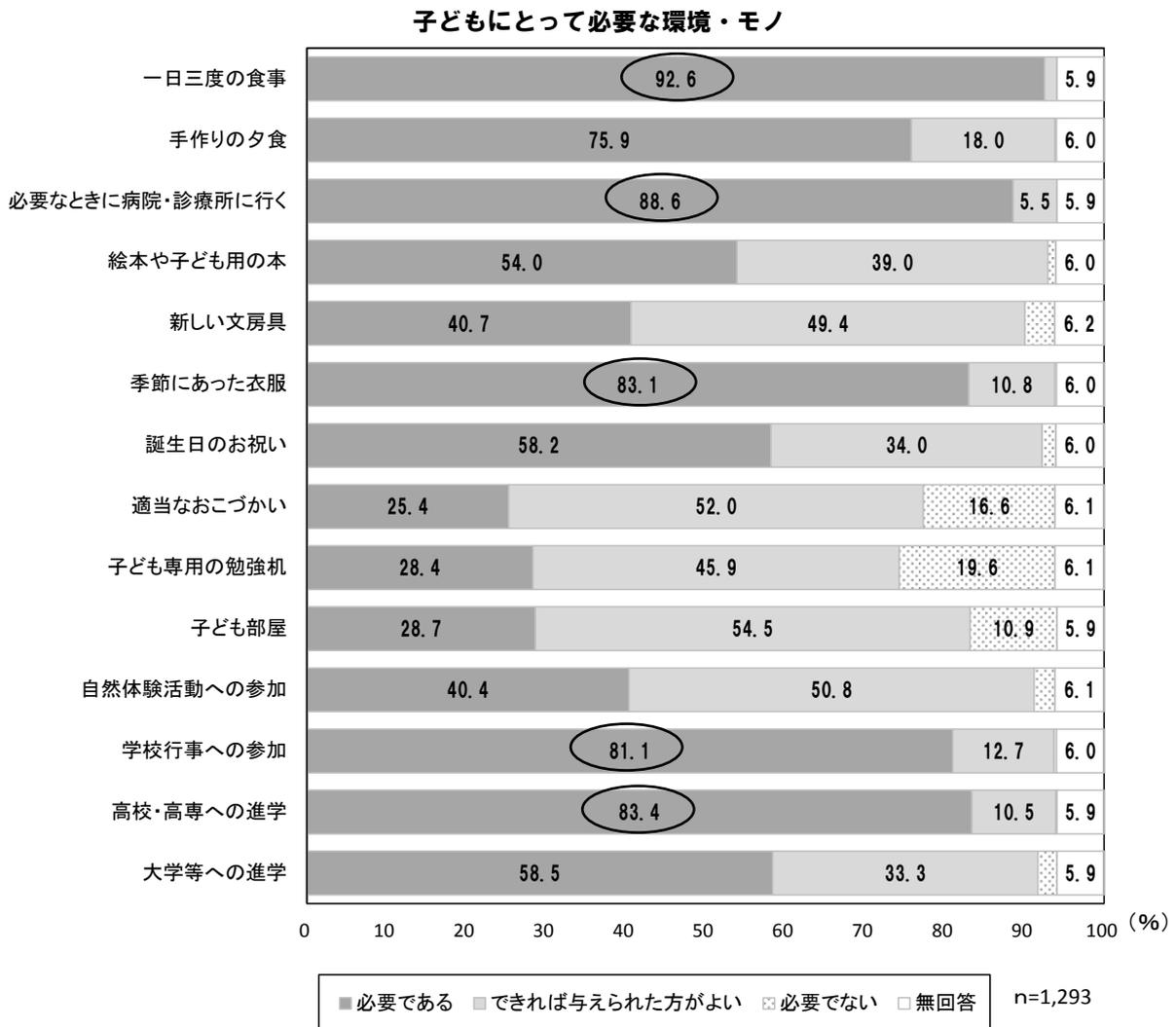
◆世帯年収“250 万円未満”の場合 ⇒ “困難度が高い”

(3) 合意基準による判別

[合意基準の設定]

子どもにとって必要な環境・モノについて伺ったところ、次のような結果でした。

“必要である”との回答が多かったのは、“一日三度の食事” 92.6%、“必要なとき病院・診療所に行く” 88.6%、“高校・高専への進学” 83.4%などとなっており、これらを含め 80%以上の方が“必要である”と考える環境・モノが 5 項目あります。



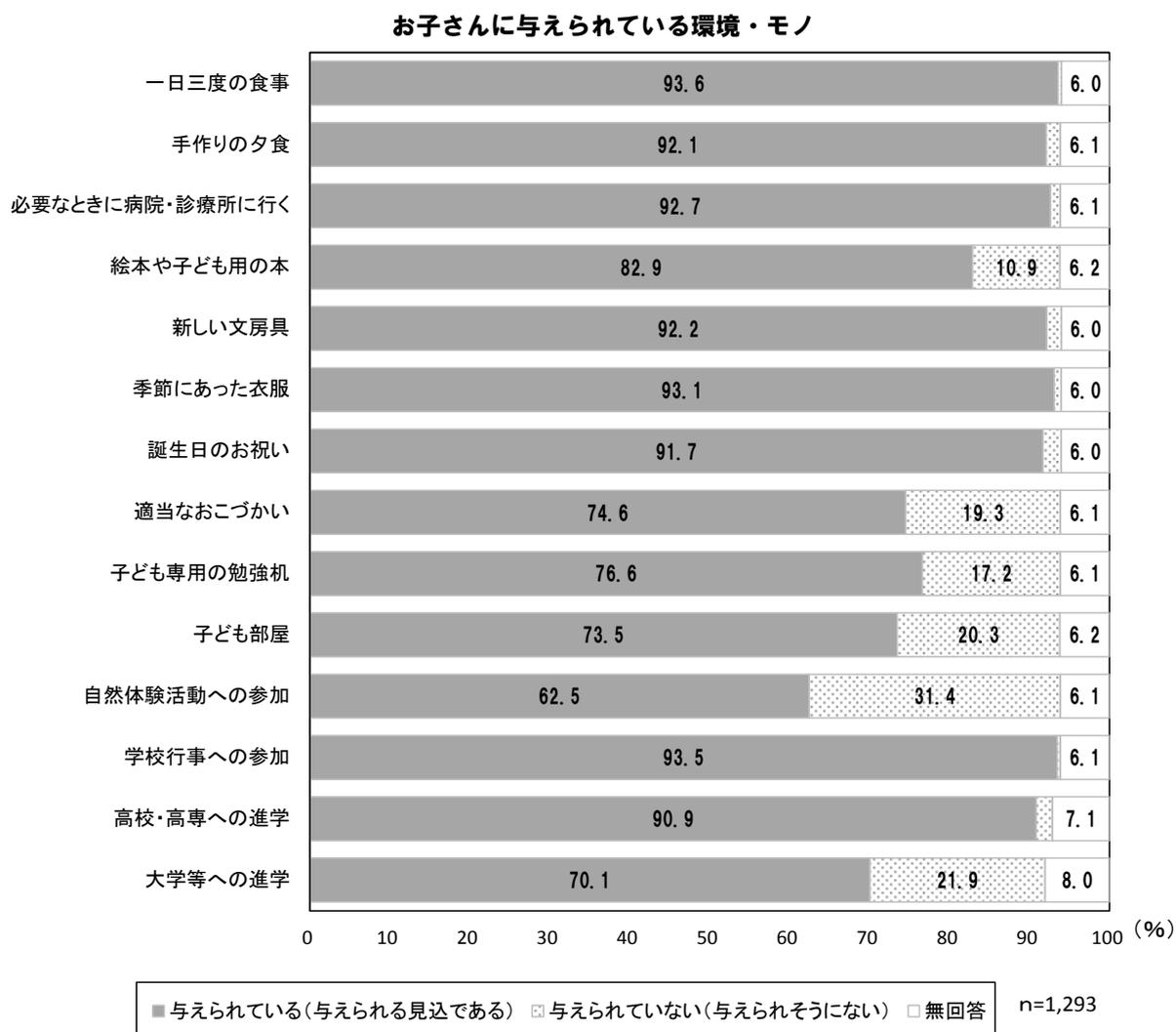
これらの 5 項目は、保護者の 80%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして捉えており、言い方を換えると、武雄市に暮らす子どもにとって欠かすべきではない環境・モノとして 80%以上の方の合意があると考えることができます。

こうした考え方にに基づき、本調査では、保護者の80%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして挙げた5項目について、子どもに欠かすべきではない環境・モノとして“困難度の高さ”の判別に用いることとしました。

合意基準5項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“必要である”割合
一日三度の食事	92.6%
必要なときに病院・診療所に行く	88.6%
高校・高専への進学	83.4%
季節にあった衣服	83.1%
学校行事への参加	81.1%

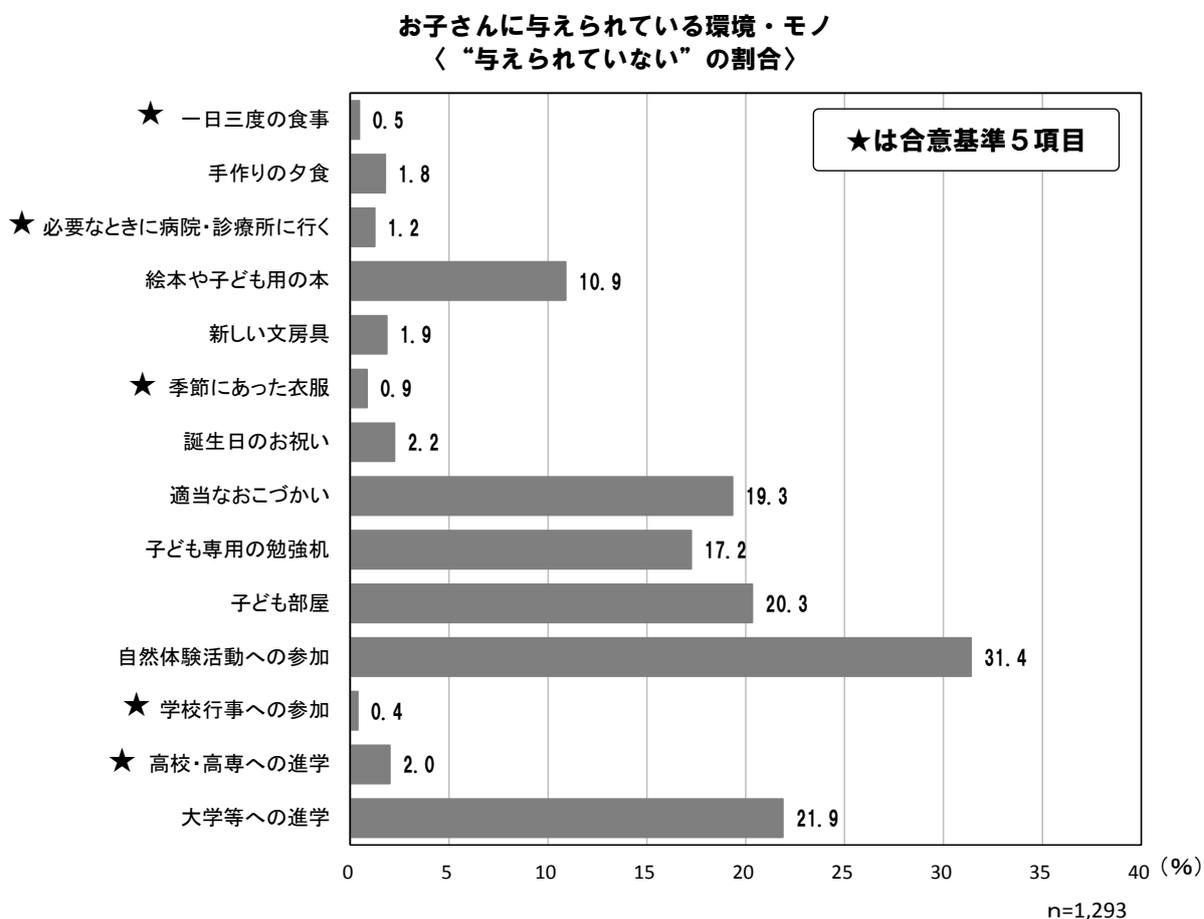
[合意基準による判別]

次に示すのは、お子さんに与えられている環境・モノの実態です。



“一日三度の食事”などが90%以上の世帯で“与えられている”一方で、“自然体験活動への参加”の62.5%など、与えられている世帯が80%未満の環境・モノも4項目あることがわかります。

こうした結果について、“与えられていない”に着目してみると次のようになっています。



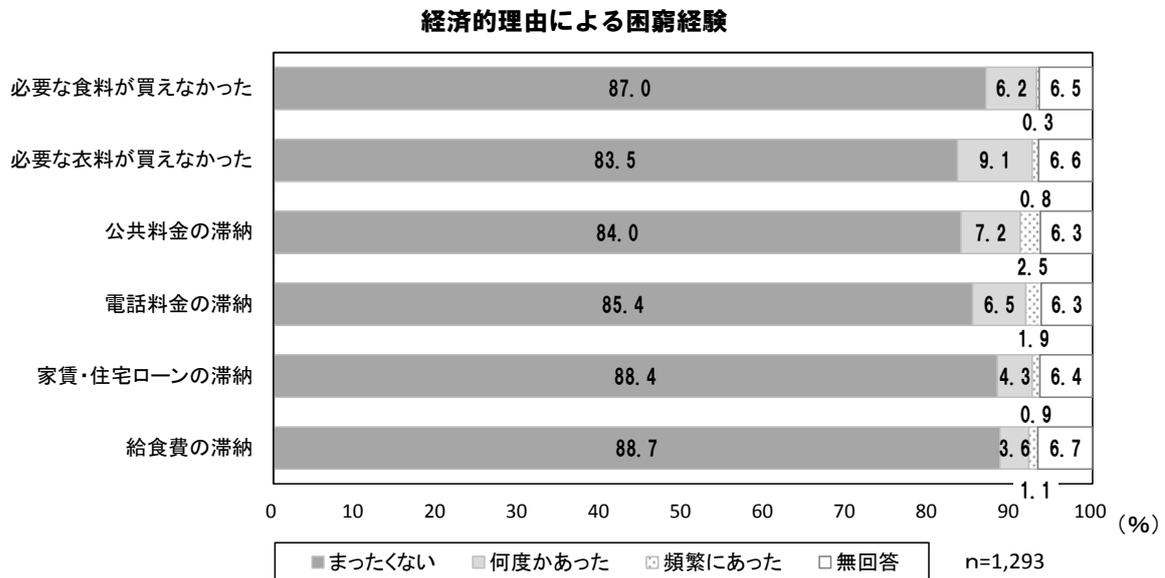
合意基準5項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“与えられていない”割合
一日三度の食事	0.5%
必要なときに病院・診療所に行く	1.2%
高校・高専への進学	2.0%
季節にあった衣服	0.9%
学校行事への参加	0.4%

合意基準による判別として、上記5項目のいずれかが“与えられていない”世帯について“困難度が高い”と判別することにしました。

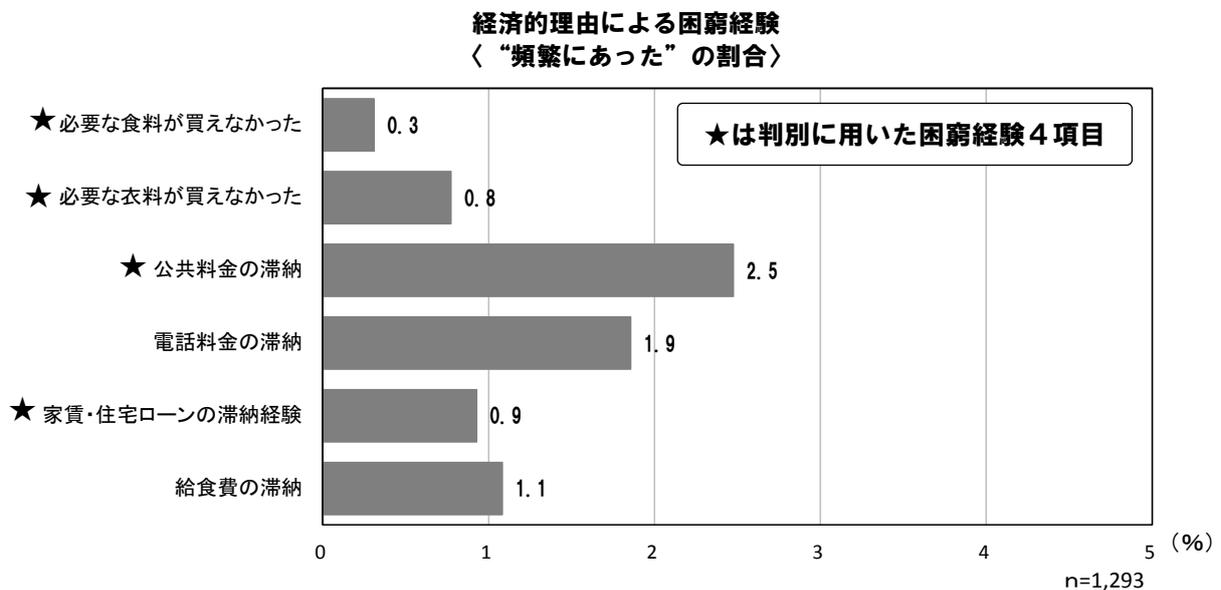
◆合意基準5項目のいずれかが“与えられていない”場合 ⇒ “困難度が高い”

(4) 困窮経験による判別

経済的理由による困窮経験について伺ったところ、“必要な食料が買えなかった”などの6項目について、次のような結果を得ることができました。



これら6項目の中で、衣・食・住に大きく関わる次の4項目を困窮経験による判別に用いることとし、“頻繁にあった”に着目してみると次のようになっています。



困窮経験による判別として、これら4項目のいずれかが“頻繁にあった”世帯について“困難度が高い”と判別することにしました。

判別に用いた困窮経験4項目
必要な食料が買えなかった
必要な衣料が買えなかった
公共料金の滞納
家賃・住宅ローンの滞納

◆ 困窮経験4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合 ⇒ “困難度が高い”

(5) 3つの視点からの判別を踏まえた類型化

ここまでに示した3つの視点からの子どもの養育の“困難度の高さ”の判別を踏まえ、次のように“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”といった類型化を行いました。

“困難度の高さ” 指標	判別基準
世帯年収	◆世帯年収“250万円未満”の場合、“困難度が高い”と判別する ◇世帯年収について無記入の場合、世帯年収による判別は不能とする
合意基準5項目	◆5項目のいずれかが“与えられていない”場合、“困難度が高い”と判別する ◇上記による“困難度が高い”以外で、5項目中に無記入の項目がある場合、合意基準5項目による判別は不能とする
困窮経験4項目	◆4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合、“困難度が高い”と判別する ◇上記による“困難度が高い”以外で、4項目中に無記入の項目がある場合、困窮経験4項目による判別は不能とする

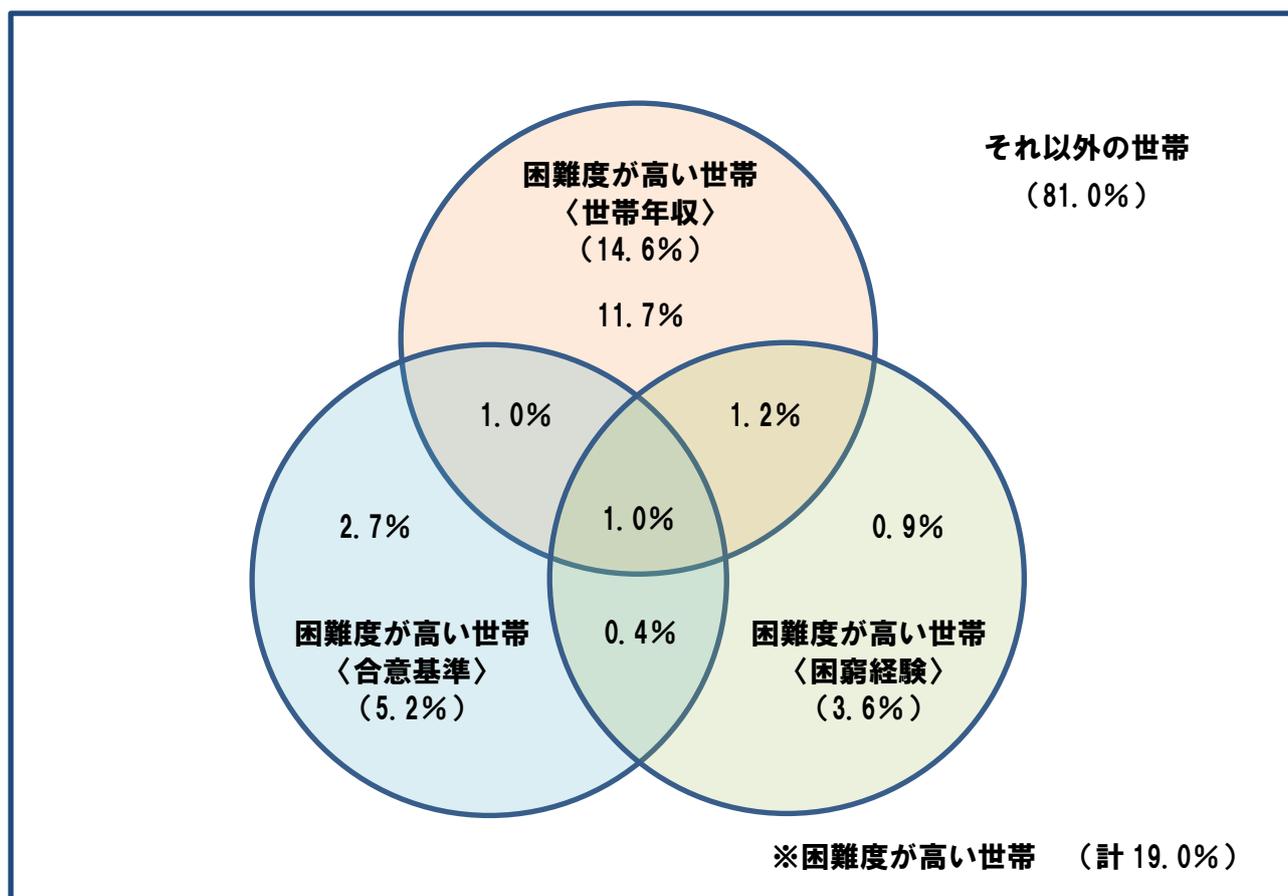


類型化	◆“困難度の高さ”指標のいずれかで“困難度が高い”と判別された場合、“ 困難度が高い世帯 ”として扱う ◇“困難度の高さ”指標のすべてにおいて判別不能と判断された場合、“困難度の高さ”の判別が不能であり、集計上は“不明”として扱う ◇上記の“困難度が高い世帯”“不明”のいずれでもない場合は、困難度が高くないことが判別されたことになり、“ それ以外の世帯 ”として扱う
-----	--



		件数	構成比	
			全データ対象	判別可能データ
集計	困難度が高い世帯	202世帯	15.6%	19.0%
	それ以外の世帯	861世帯	66.6%	81.0%
	不明	230世帯	17.8%	
	計	1,293世帯	100.0%	100.0%

“不明” データを除くと、“困難度が高い世帯” が全体の 19.0%、“それ以外の世帯” が 81.0%となります。

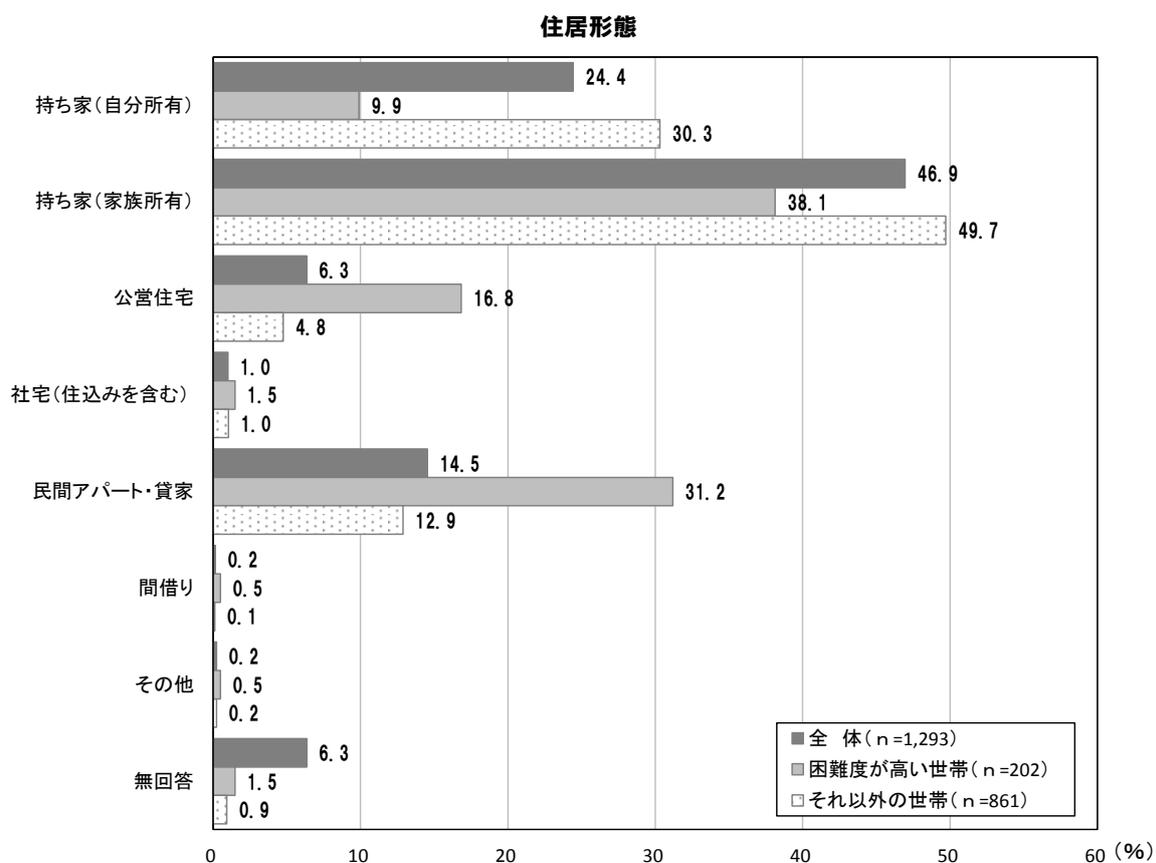


- 本レポートでは、次ページ以降、原則として類型化した“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”別の集計を基本とします。
- 集計結果を示すグラフには、“全体”“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”それぞれが示されており、“全体”には“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”の類型化ができなかった“不明”を含んでいます。
- 単数回答 (SA) の設問で、各選択肢の合計が 100.0%にならない場合があるのは四捨五入処理の関係によるものです。複数回答 (MA) の設問については、基本的に各選択肢の合計は 100.0%を超えます。
- グラフ中に“n=1,293”などとあるのは、その設問に回答すべき対象者数です。一部の人に回答を求めている設問などがあるため、nの値は設問によって異なります。

3. 集計結果

(1) 住居形態 (SA)

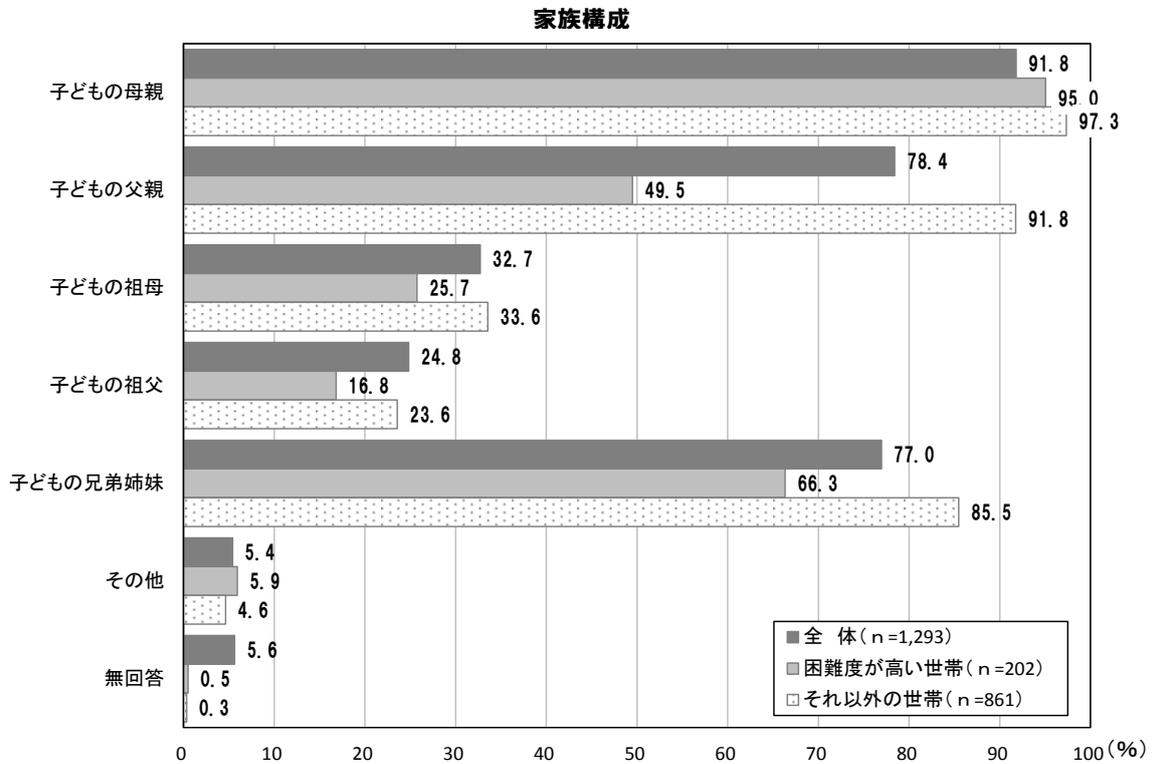
住居形態について、最も多いのは“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに“持ち家(家族所有)”で、それぞれ49.7%、38.1%となっていますが、次いで多いのは“それ以外の世帯”では“持ち家(自分所有)”30.3%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では“民間アパート・貸家”31.2%となっています。



(2) 家族構成 (SA)

家族構成についてみると、“子どもの父親”がいる世帯が“それ以外の世帯”では91.8%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では49.5%と半数以下となっています。

この他、“子どもの兄弟姉妹”がいる世帯が“それ以外の世帯”では85.8%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では66.3%と少ない状況です。

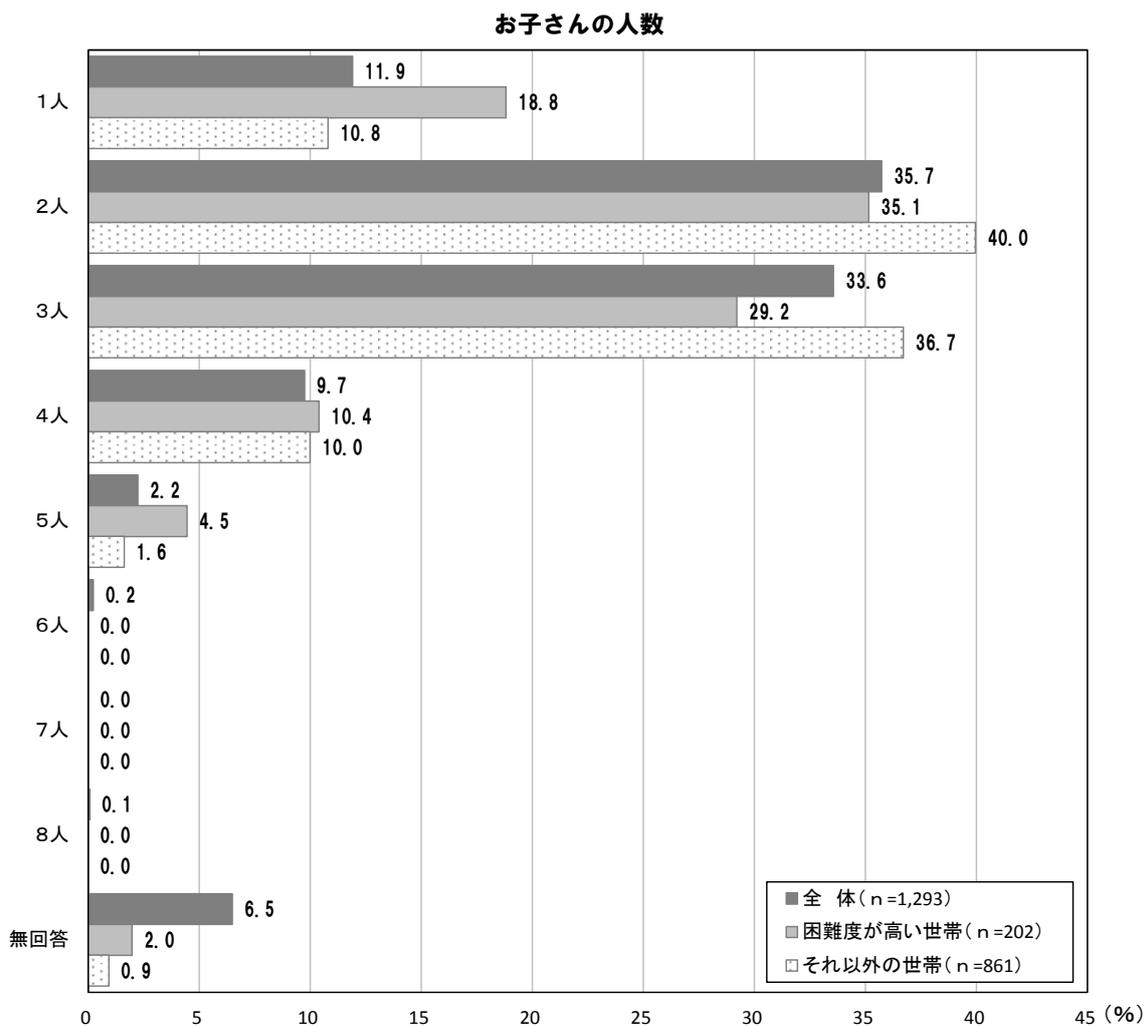


(3) お子さんの人数 (NA = 数量回答)

お子さんの人数については、“困難度が高い世帯” “それ以外の世帯” とともに “2人” が最も多く、それぞれ 40.0%、35.1% となっています。

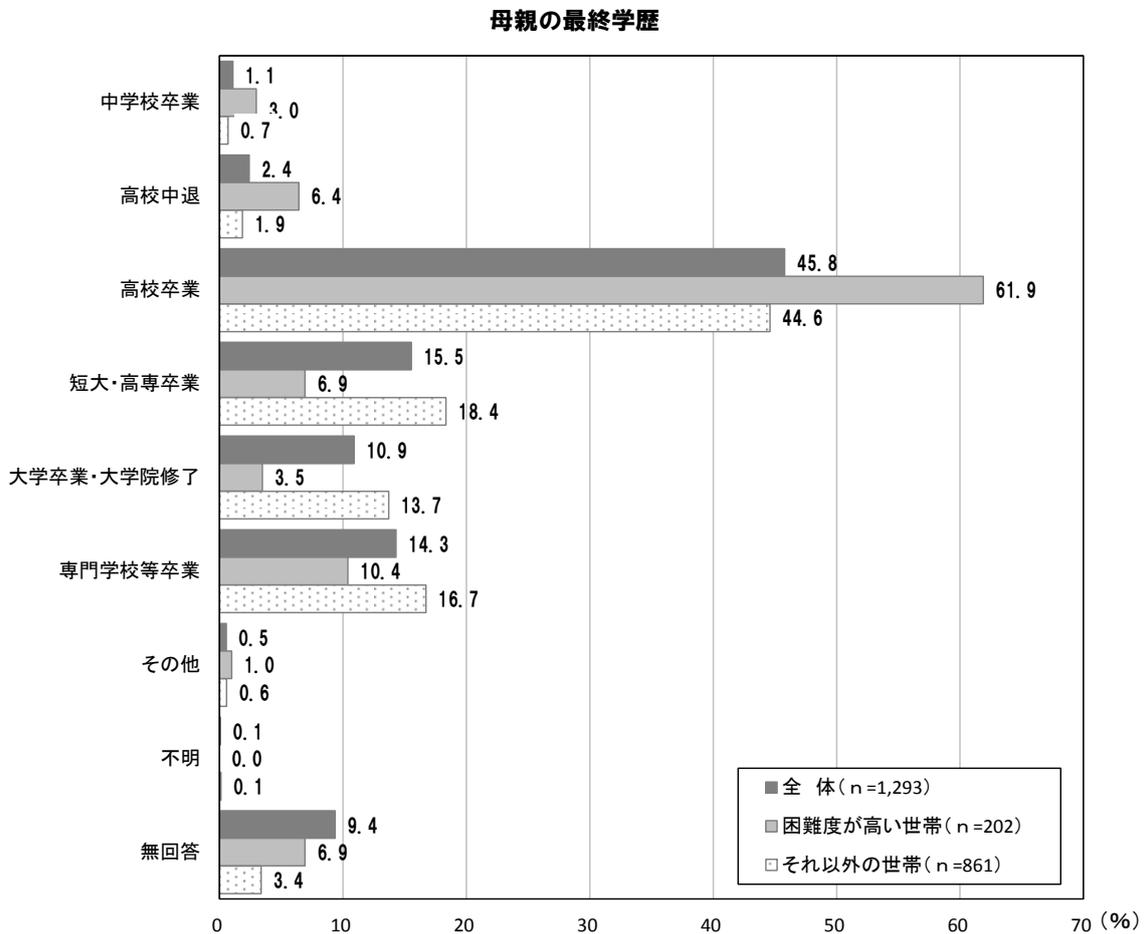
お子さんが “1人” については、“それ以外の世帯” では 10.8% に対し、“困難度が高い世帯” では 18.8% と多くなっています。

“無回答” を除き、お子さんの平均数を算出すると “困難度が高い世帯” では 2.45 人、“それ以外の世帯” では 2.51 人となります。



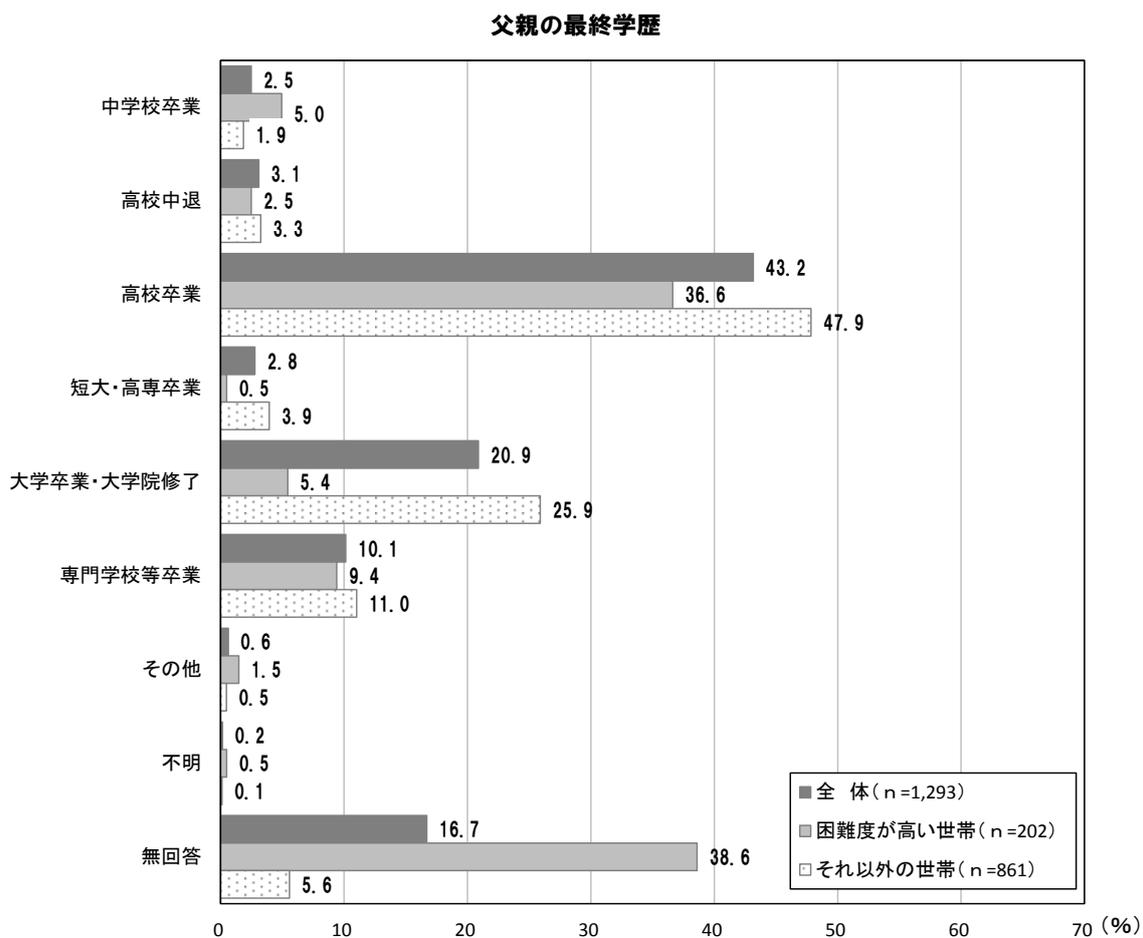
(4) 親の最終学歴（母親・父親）（SA）

母親の最終学歴については、“高校卒業”が“それ以外の世帯”では44.6%に対し、“困難度が高い世帯”では61.9%と多く、一方、“大学卒業・大学院卒業”は“それ以外の世帯”の13.7%に対し、“困難度が高い世帯”では3.5%と少なくなっています。



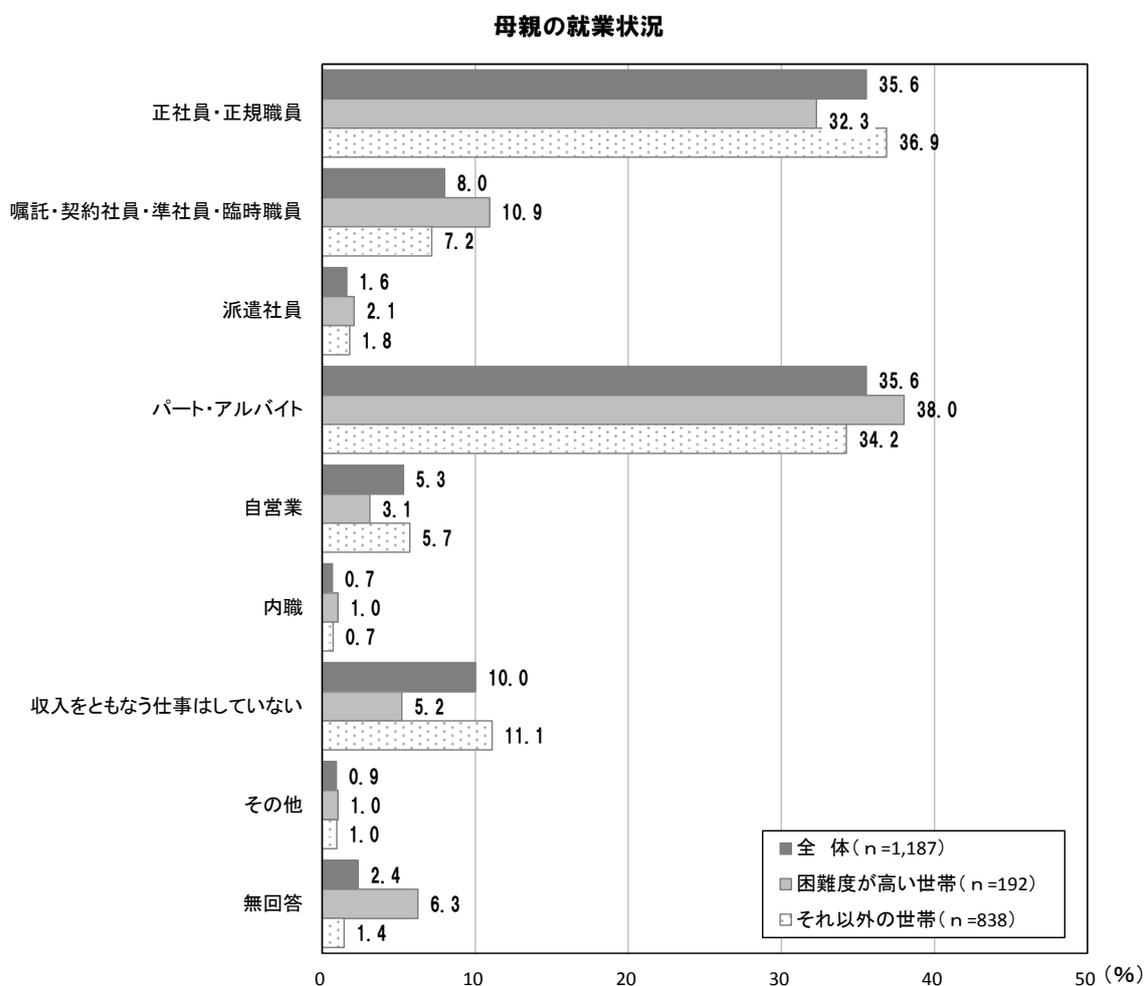
父親の学歴について、“困難度が高い世帯”では“無回答”が最も多くなっています。これは、本設問については母親・父親それぞれの有無に関わらずわかる範囲でその最終学歴を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯でその最終学歴がわからない場合など、“無回答”となっています。

“高校卒業”について“それ以外の世帯”の47.9%に対し、“困難度が高い世帯”では36.6%と少なく、一方、“大学卒業・大学院卒業”は“それ以外の世帯”の25.9%に対し、“困難度が高い世帯”では5.4%と少なくなっています。



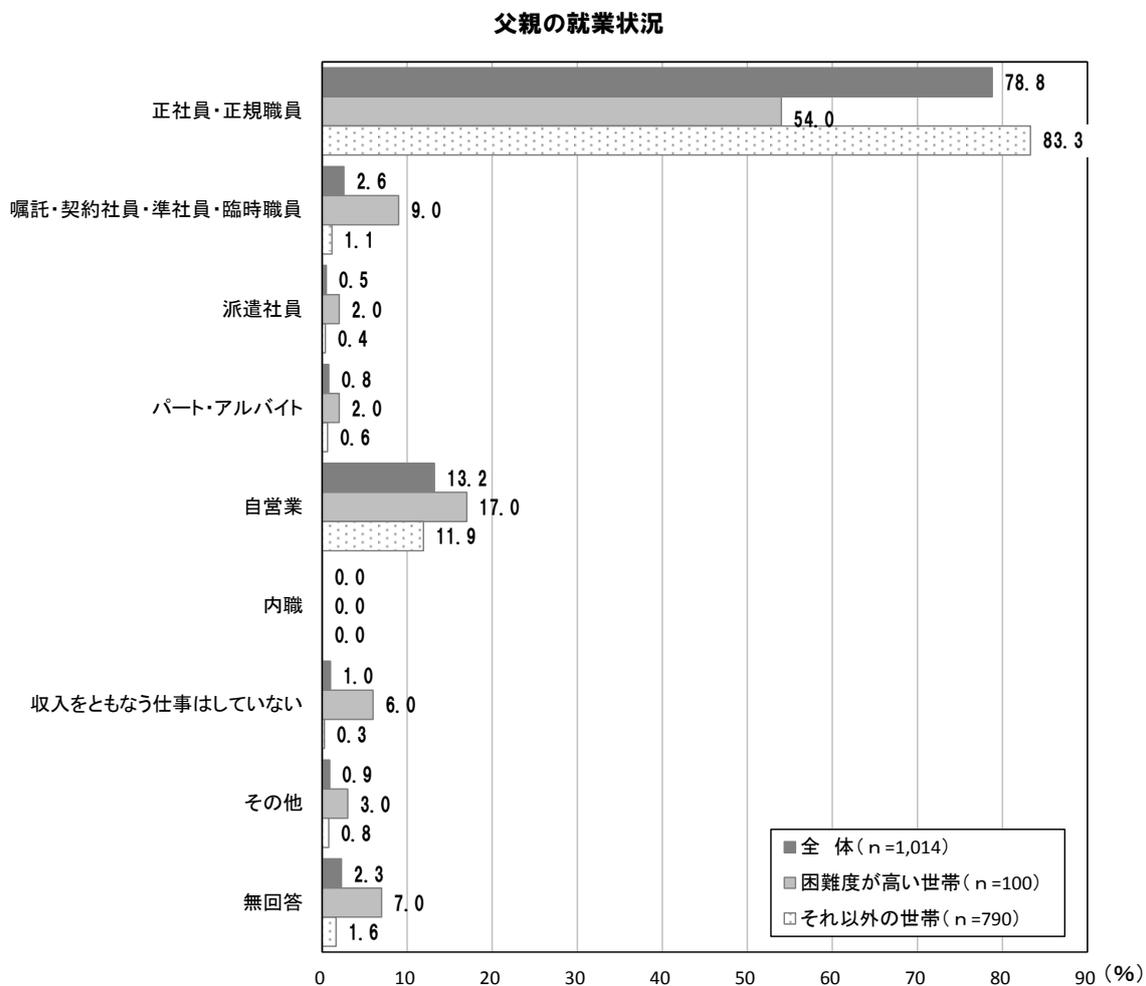
(5) 親の就業状況（母親・父親）（SA）

母親の就業状況については、“それ以外の世帯”では“正社員・正規社職員”が36.9%で最も多く、次いで“パート・アルバイト”34.2%となっていますが、“困難度が高い世帯”では逆に“パート・アルバイト”が38.0%で最も多く、次いで“正社員・正規社職員”32.3%となっています。



父親の就業状況については、“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに“正社員・正規社職員”が最も多くなっていますが、“それ以外の世帯”の83.3%に対して“困難度が高い世帯”では54.0%とかなりの差異があります。

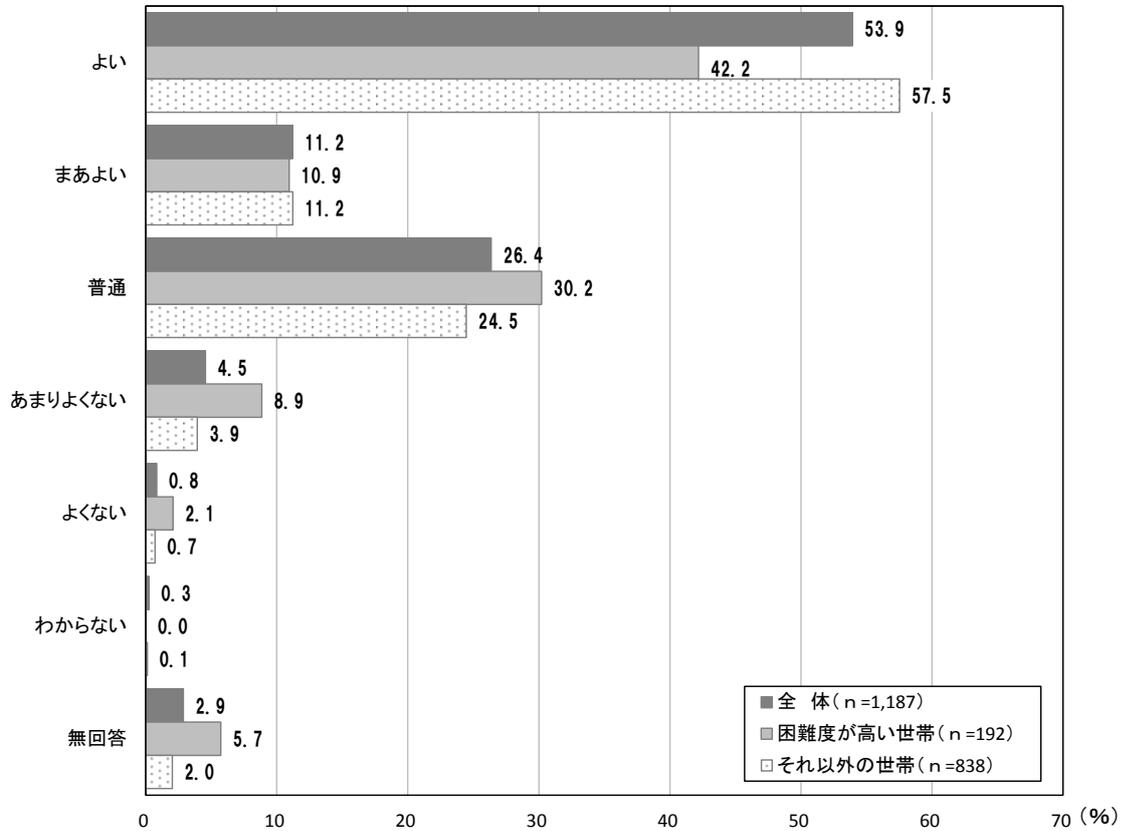
“困難度が高い世帯”では、“正社員・正規社職員”の割合が“それ以外の世帯”に比べ低い分、“嘱託・契約社員・準社員・臨時職員”9.0%や“収入をとまなうしごととはしていない”6.0%などがやや多くなっています。



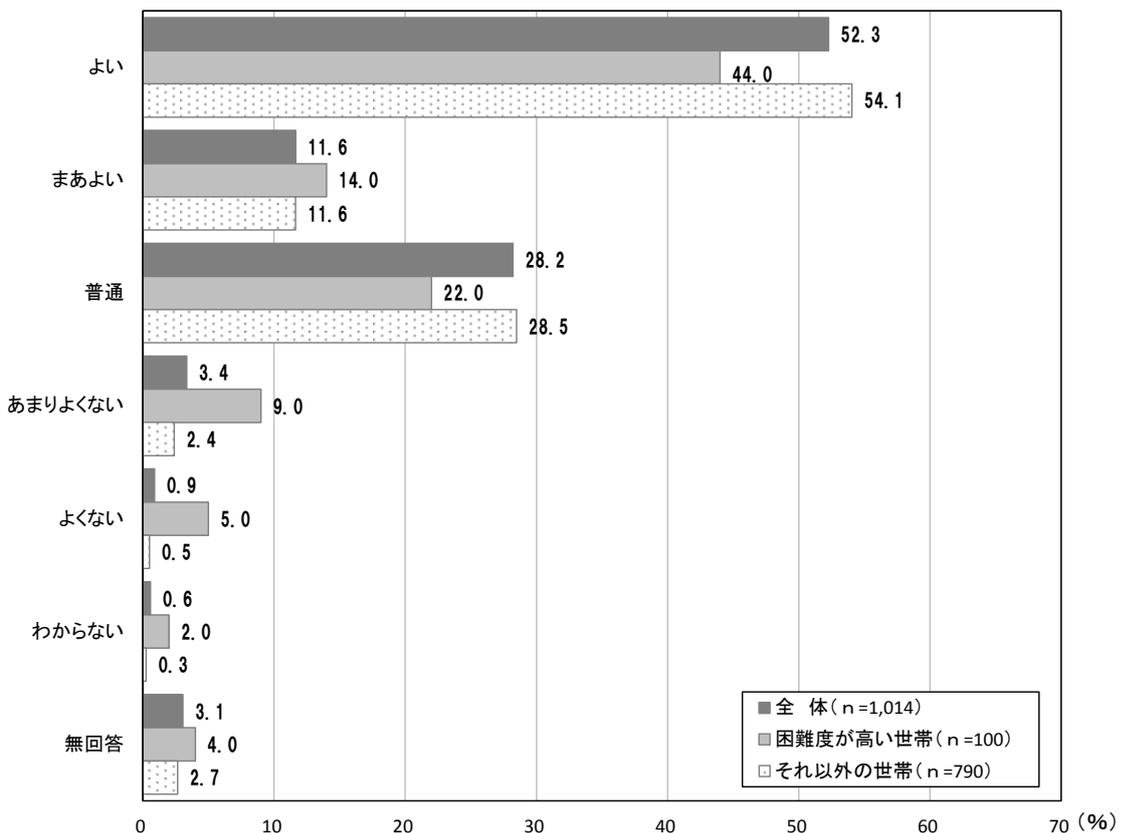
(6) 親の健康状況（母親・父親）（SA）

健康状態については、母親・父親ともに、“それ以外の世帯” に比べて“困難度が高い世帯” では“よい” が少なく、“あまりよくない” “よくない” が多くなっています。

母親の健康状態

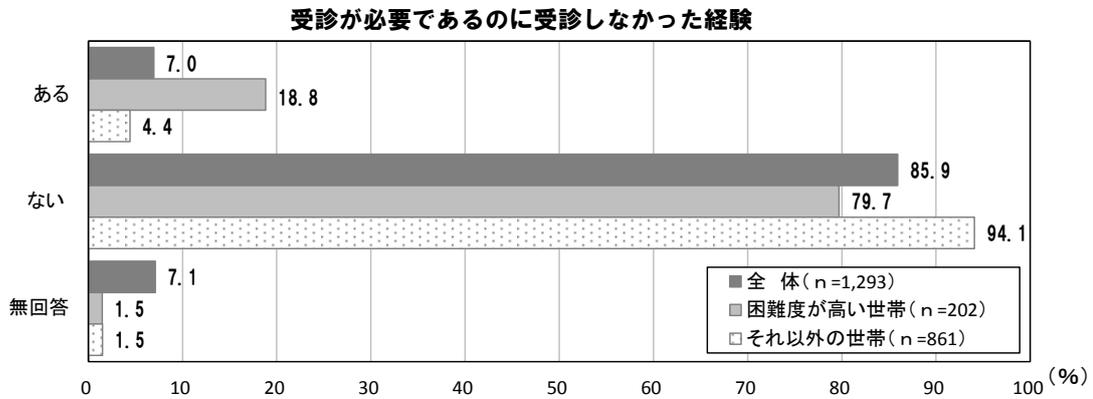


父親の健康状態

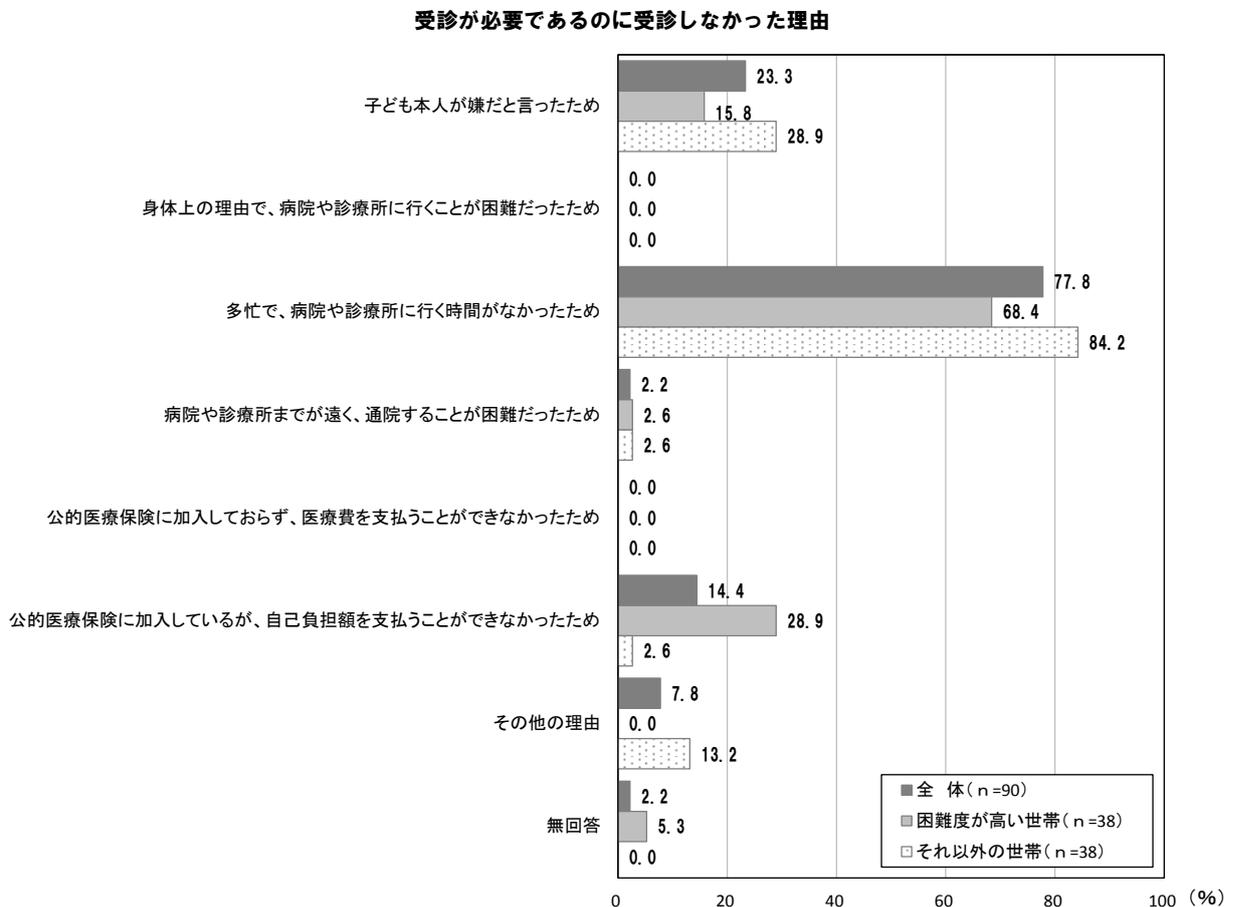


(7) 受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)

受診が必要であるのに受診しなかった経験について、“ある”が“それ以外の世帯”の4.4%に対し、“困難度が高い世帯”では18.8%と4倍以上になっています。



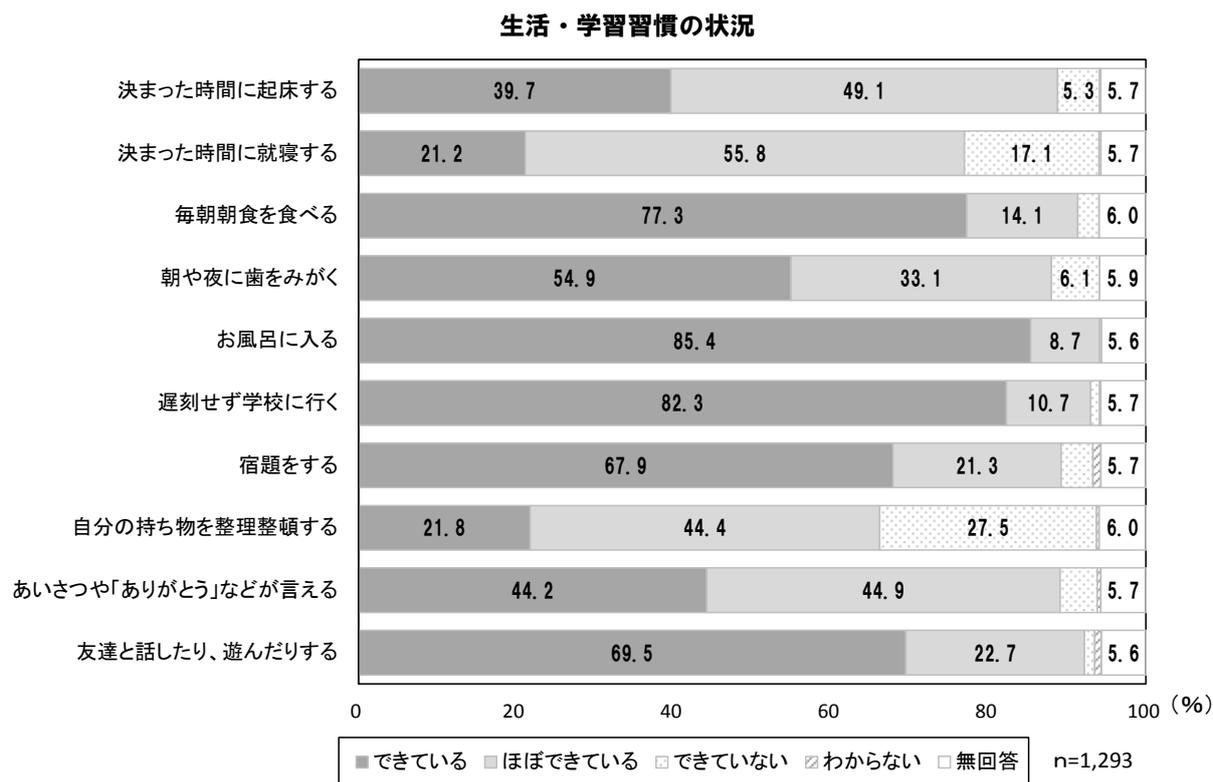
受診しなかった理由 (MA) としては、“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに“多忙で、病院や診療所に行く時間がなかったため”が最も多くなっていますが、次いで多いのは“それ以外の世帯”では“子ども本人が嫌だと言ったため”28.9%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では“公的医療保険に加入しているが、自己負担額を支払うことができなかったため”が28.9%とかなり多くなっています。



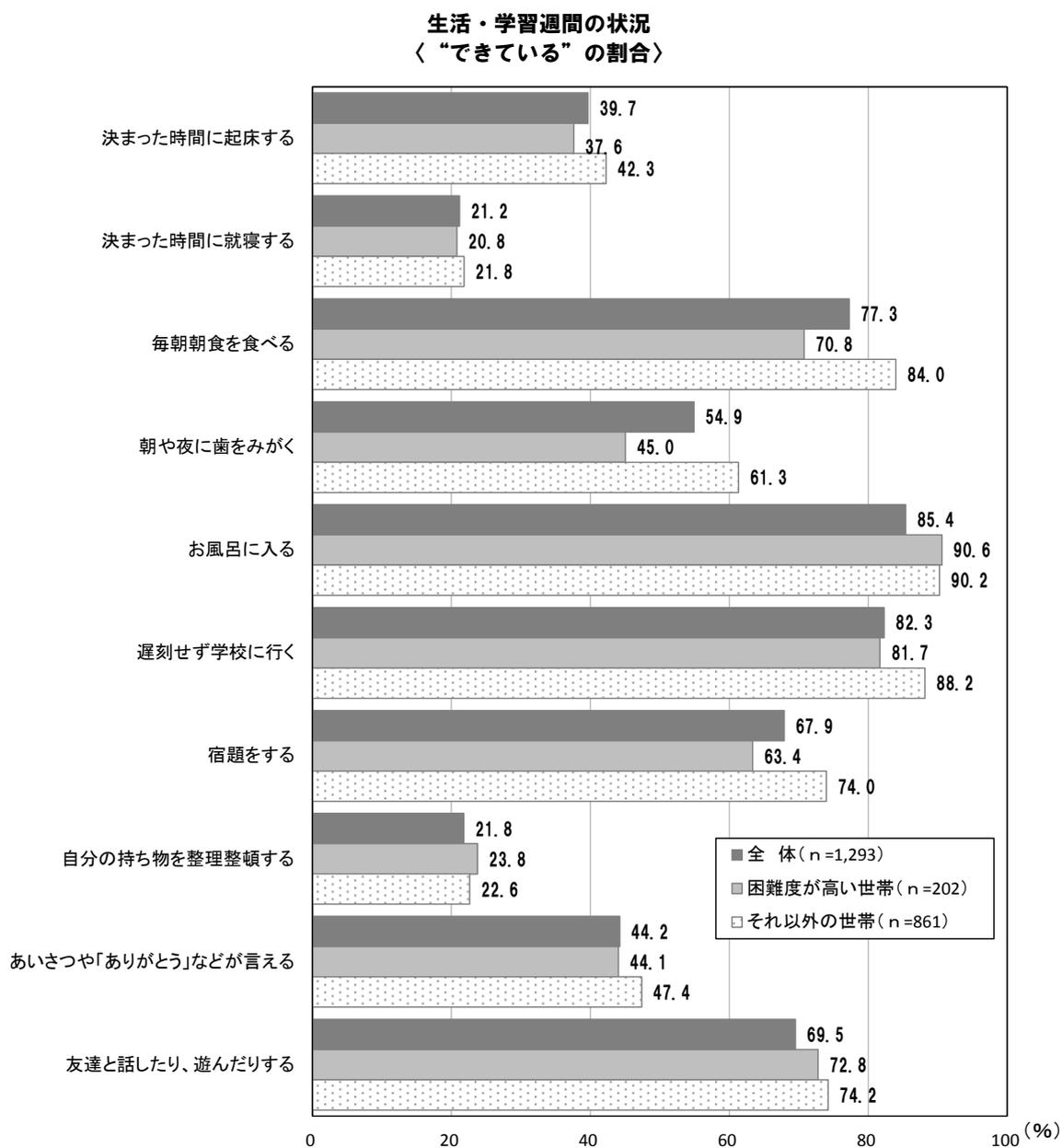
(8) 生活・学習習慣の状況 (SA)

生活・学習習慣の状況についてみると、“できている”が多いのは“お風呂に入る”85.4%、“遅刻せずに学校へ行く”82.3%などで、これらを含め、10項目中の6項目で“できている”が50%以上となっています。

“できている”が50%未満の項目は、“決まった時間に就寝する”21.2%、“自分の持ち物を整理整頓する”21.8%、“決まった時間に起床する”39.7%、“あいさつや「ありがとう」などが言える”44.2%の4項目となっています。

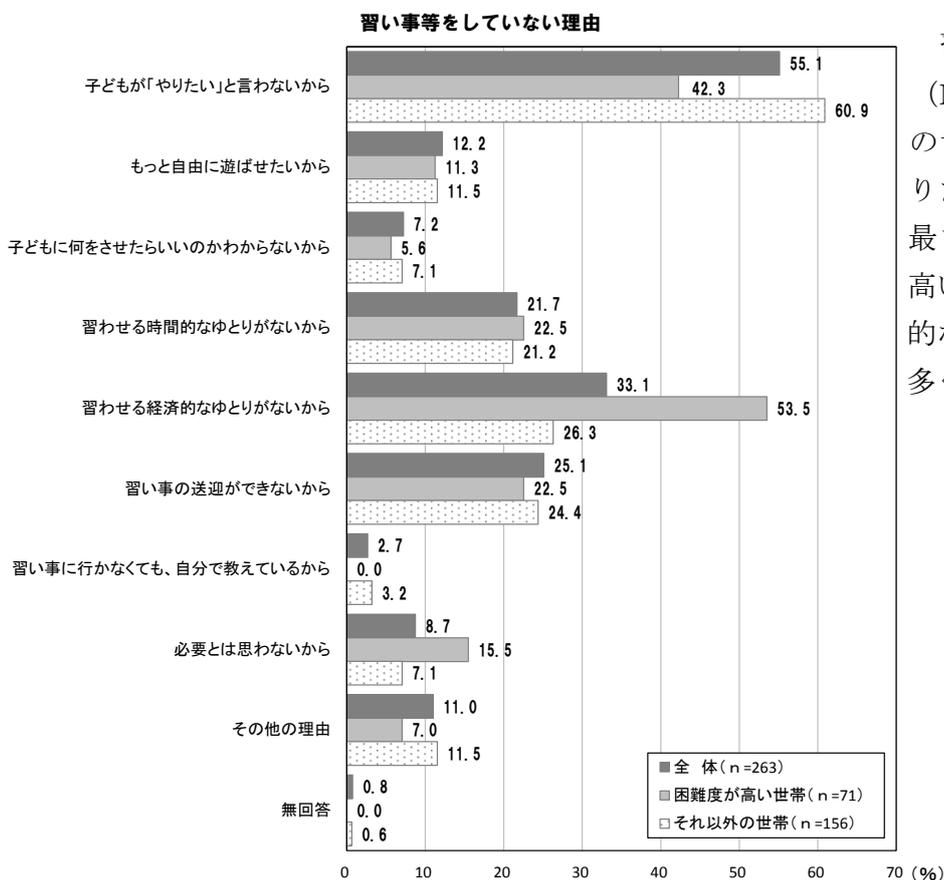
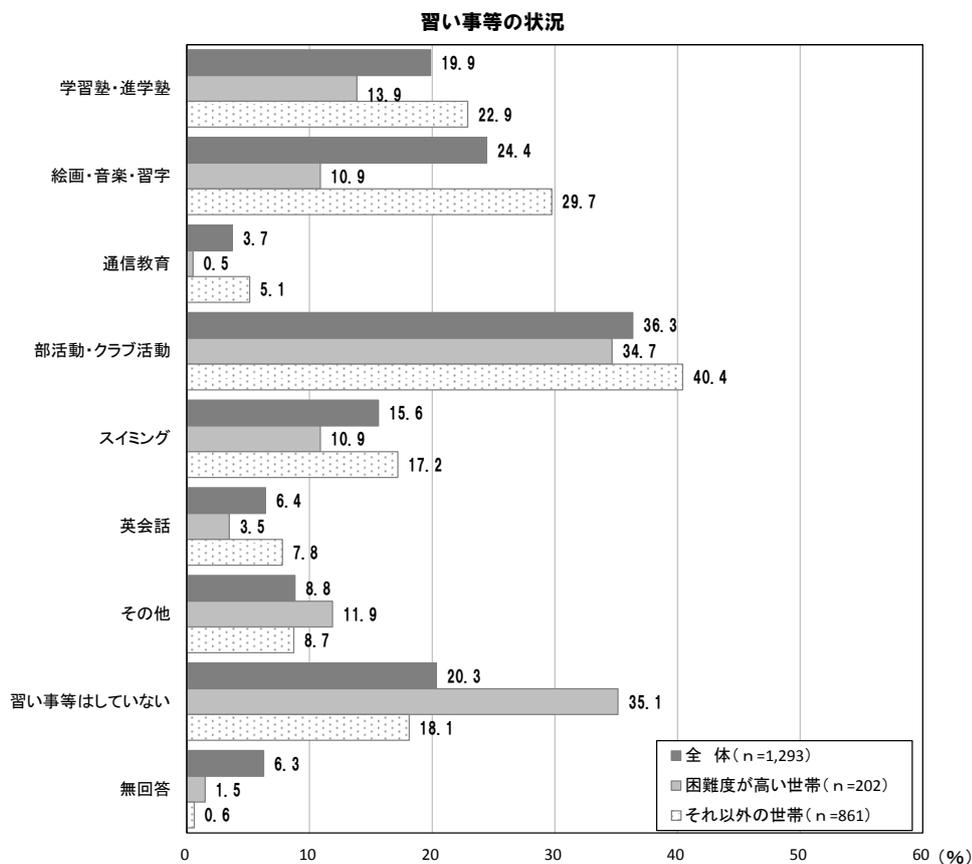


“毎朝朝食を食べる”が“それ以外の世帯”では84.0%で“できている”のに対し、“困難度が高い世帯”では70.8%と少ないのを始め、多くの項目で“困難度が高い世帯”の方が“できている”割合が少ない状況です。



(9) 習い事等の状況 (SA)

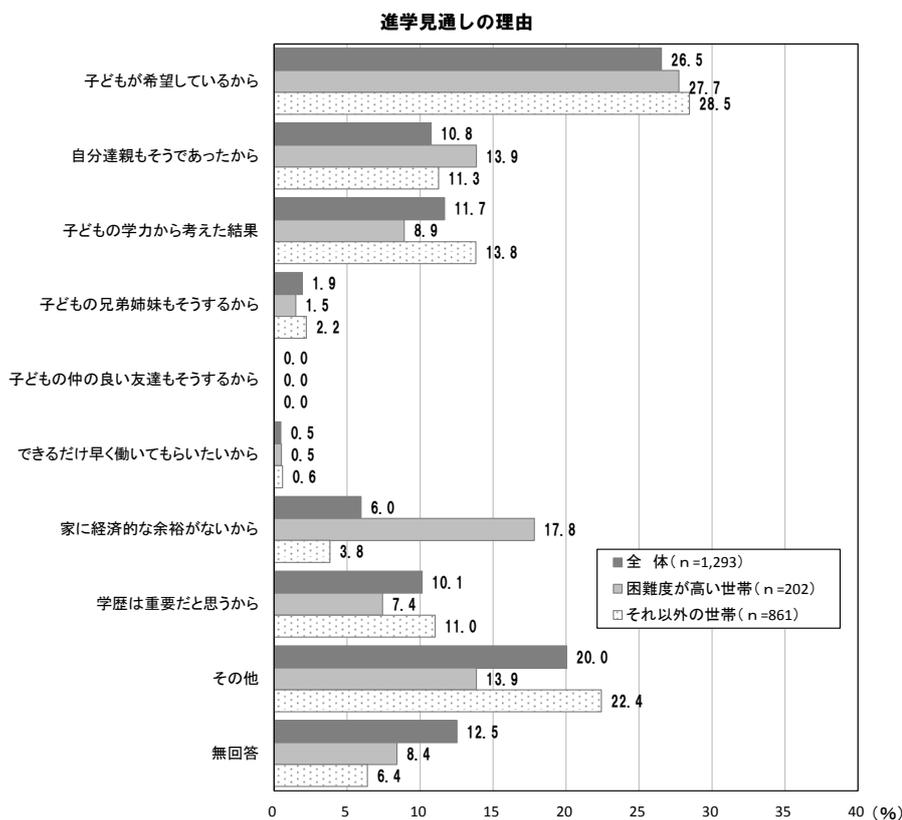
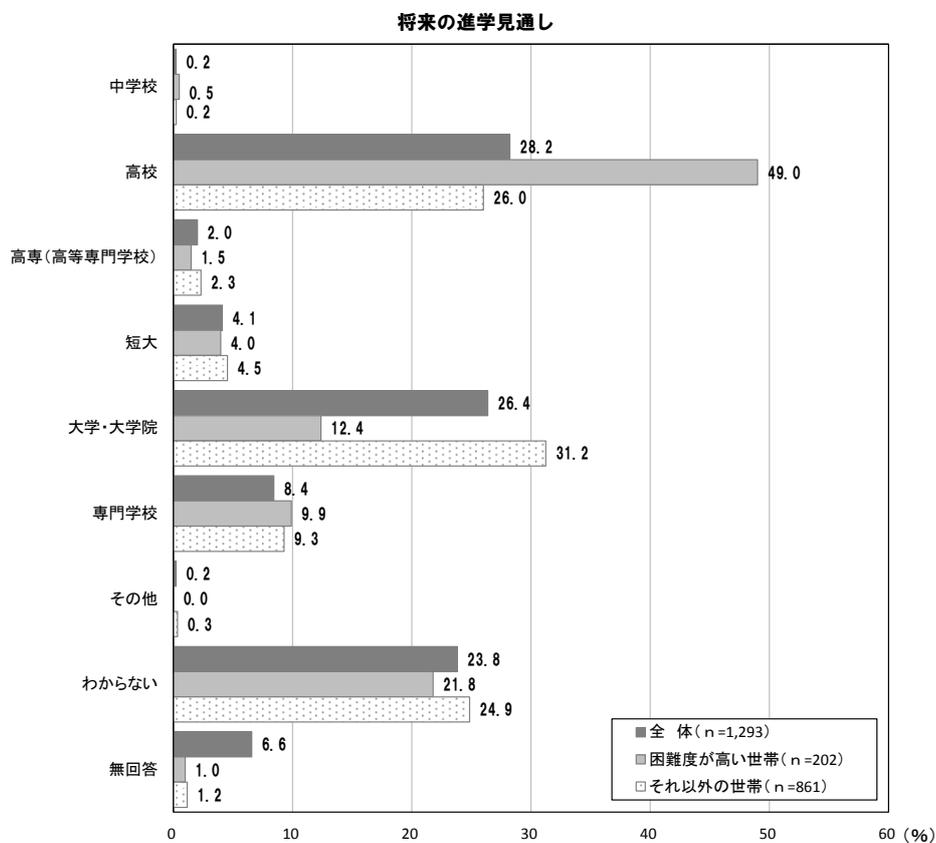
習い事等の状況についてみると、“困難度が高い世帯”では“習い事等はしていない”が35.1%で最も多い状況です。



習い事等をしていない理由 (MA) としては、“それ以外の世帯”では“子どもが「やりたい」と言わないから”が最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では“習わせる経済的なゆとりがないから”が最も多くなっています。

(10) 将来の進学見通し (SA)

お子さんの将来の進学見通しについては、“それ以外の世帯”では“大学・大学院”が最も多く31.2%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では“高校”が49.0%で最も多くなっています。

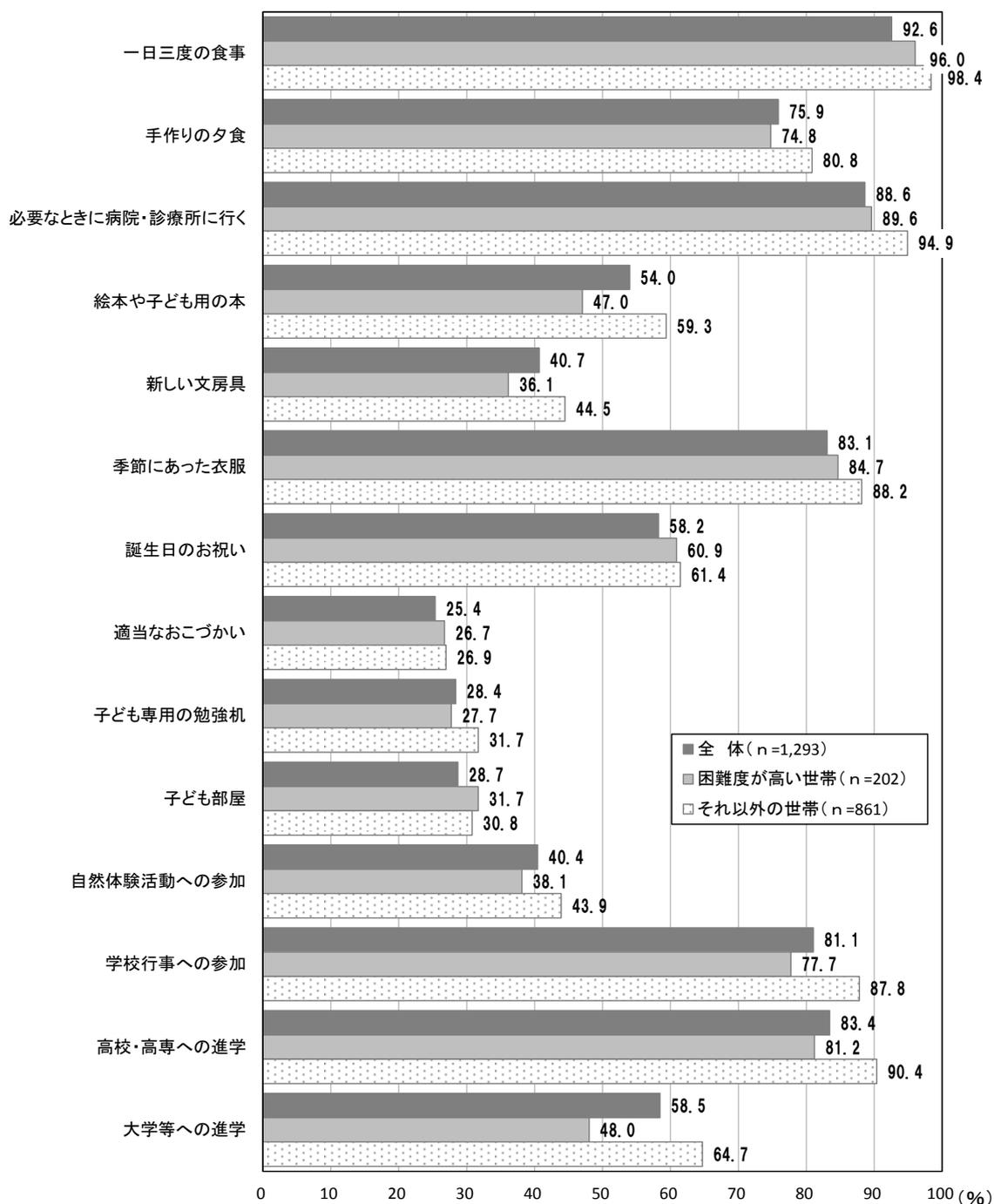


見通しの理由(SA)として、“困難度が高い世帯”では“家に経済的な余裕がないから”が17.8%と多いのが目を惹きます。

(11) 子どもにとって必要な環境・モノ（SA）

子どもにとって必要な環境・モノについて、“必要である”と考える割合をみると、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて低いことがわかります。

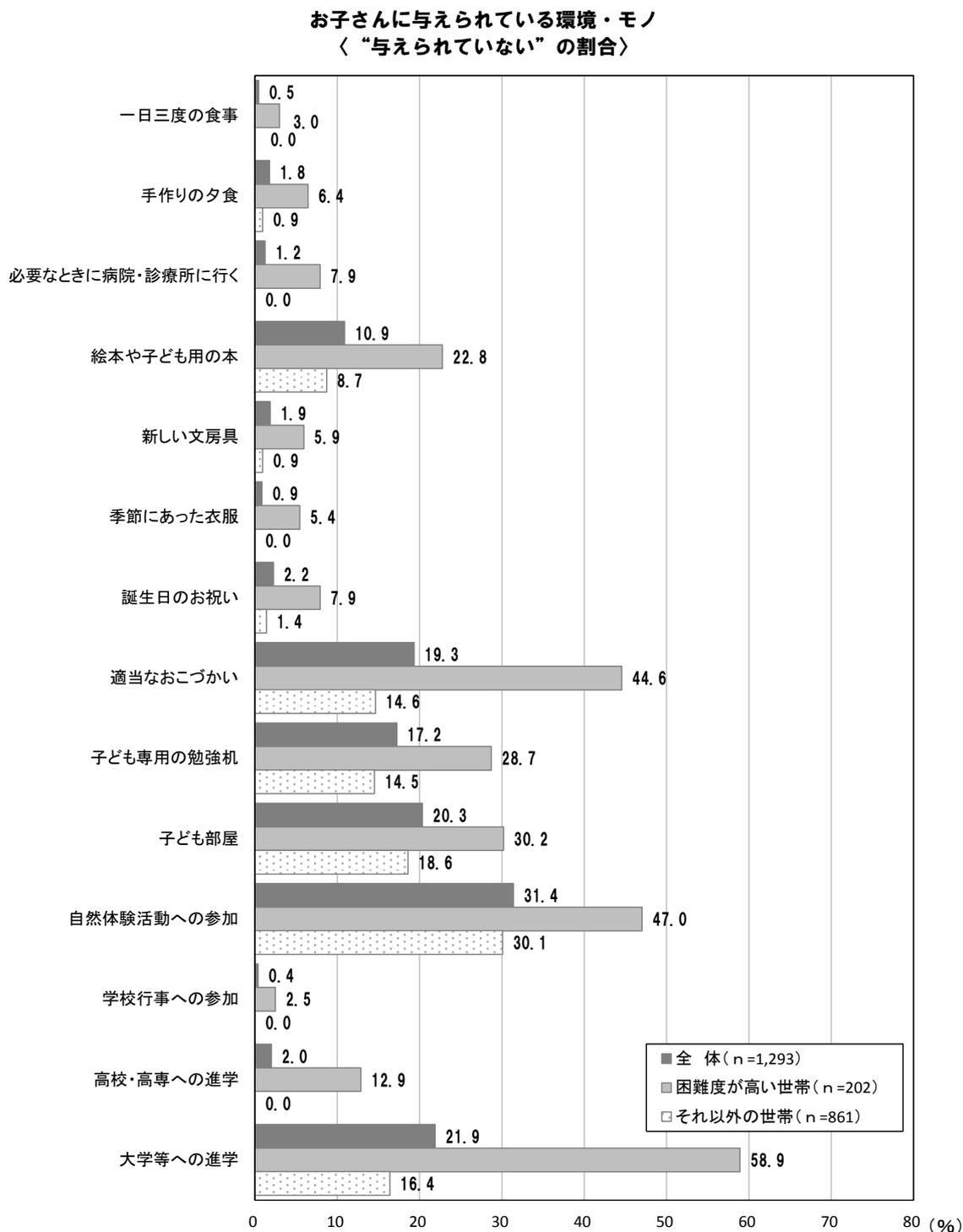
子どもにとって必要な環境・モノ



(12) お子さんに与えられている環境・モノ (SA)

お子さんに与えられている環境・モノについて、“与えられていない”割合をみると、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて高いことがわかります。

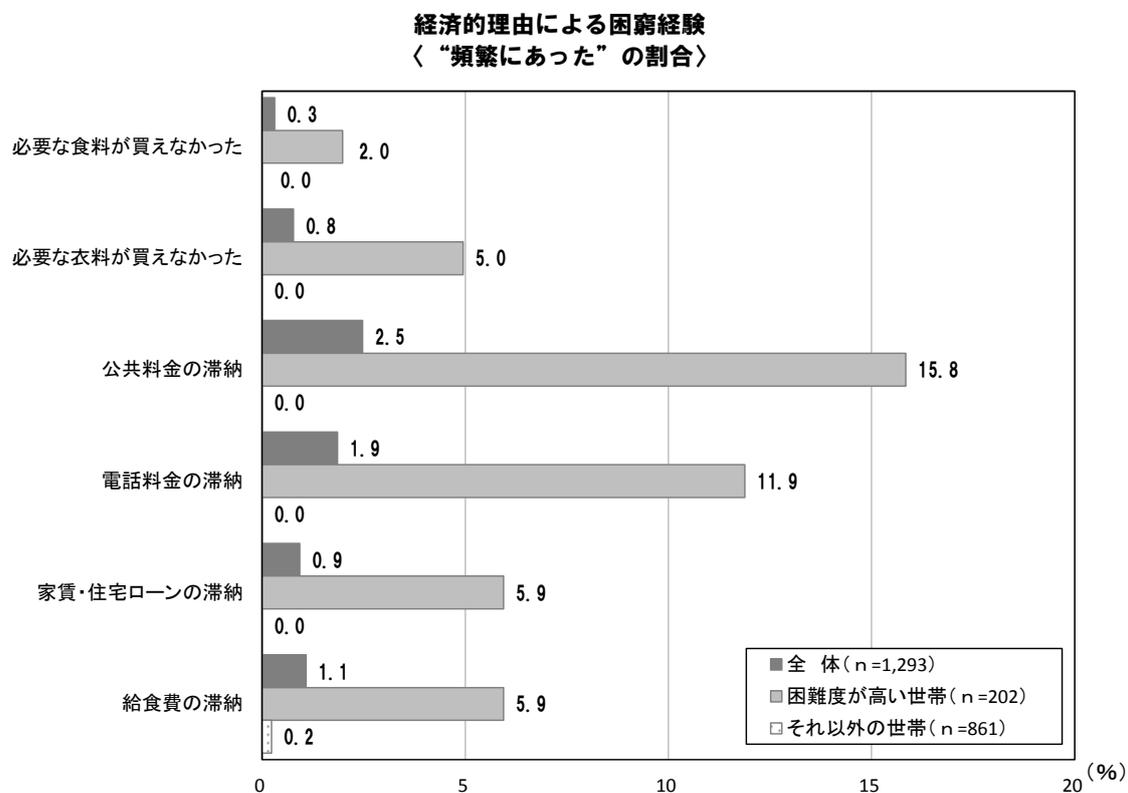
特に、“困難度が高い世帯”における“大学等への進学”の58.9%、“自然体験活動への参加”の47.0%、“適当なおこづかい”の44.6%などが目を惹きます。



(13) 経済的理由による困窮経験 (SA)

経済的理由による困窮経験について、“頻繁にあった”割合をみると、“それ以外の世帯”では“給食費の滞納”0.2%以外はすべての項目で0.0%（経験なし）となっています。

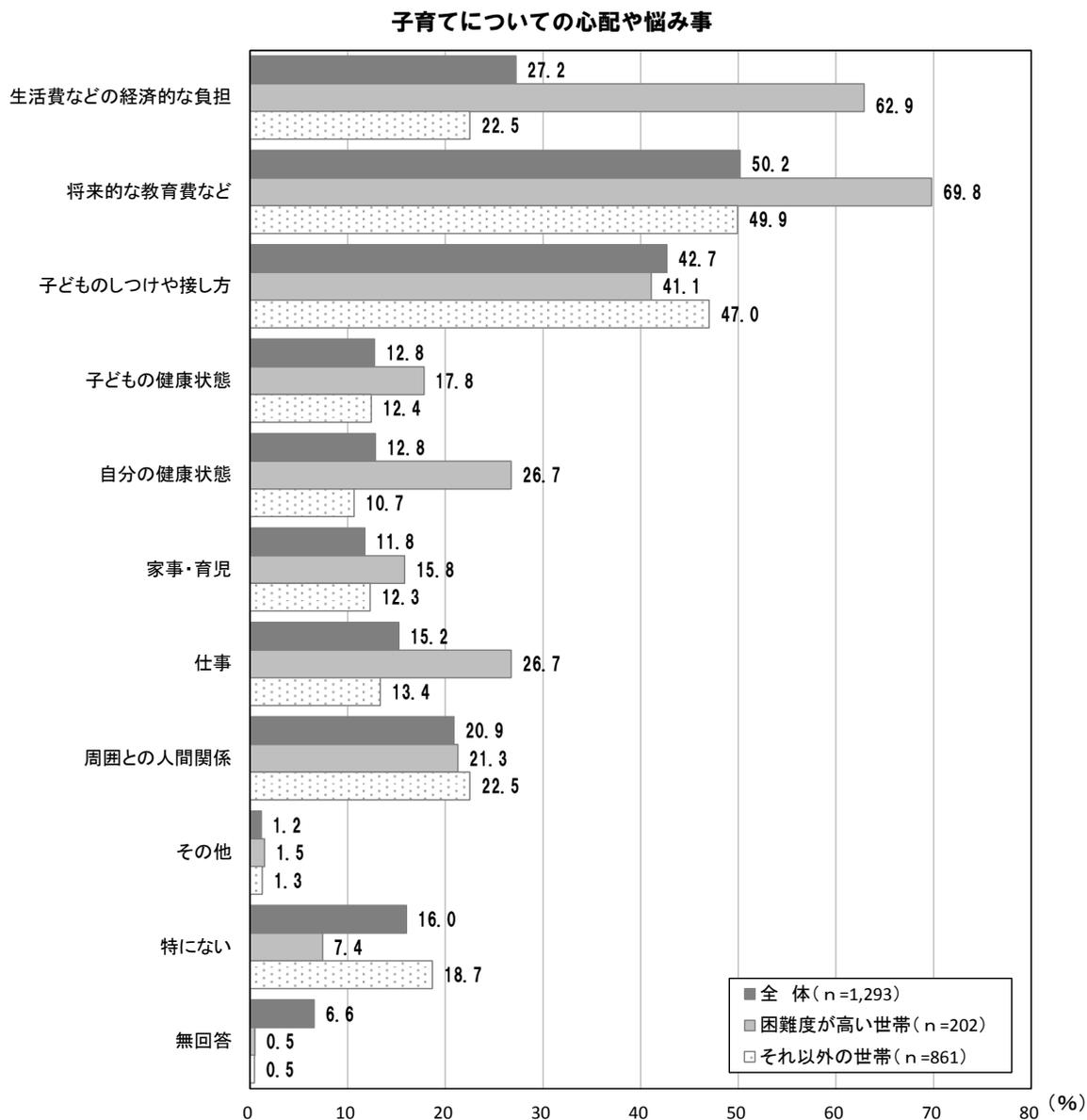
“困難度が高い世帯”では、特に“公共料金の滞納”の15.8%、“電話料金の滞納”の11.9%が目を惹きます。



(14) 子育てについての心配や悩み事 (MA)

子育てについての心配や悩み事について、“それ以外の世帯”では“将来的な教育費など”が最も多く49.9%ですが、“困難度が高い世帯”では“将来的な教育費など”の69.8%、“生活費などの経済的な負担”の62.9%が過半数を超える心配や悩み事として挙げられています。

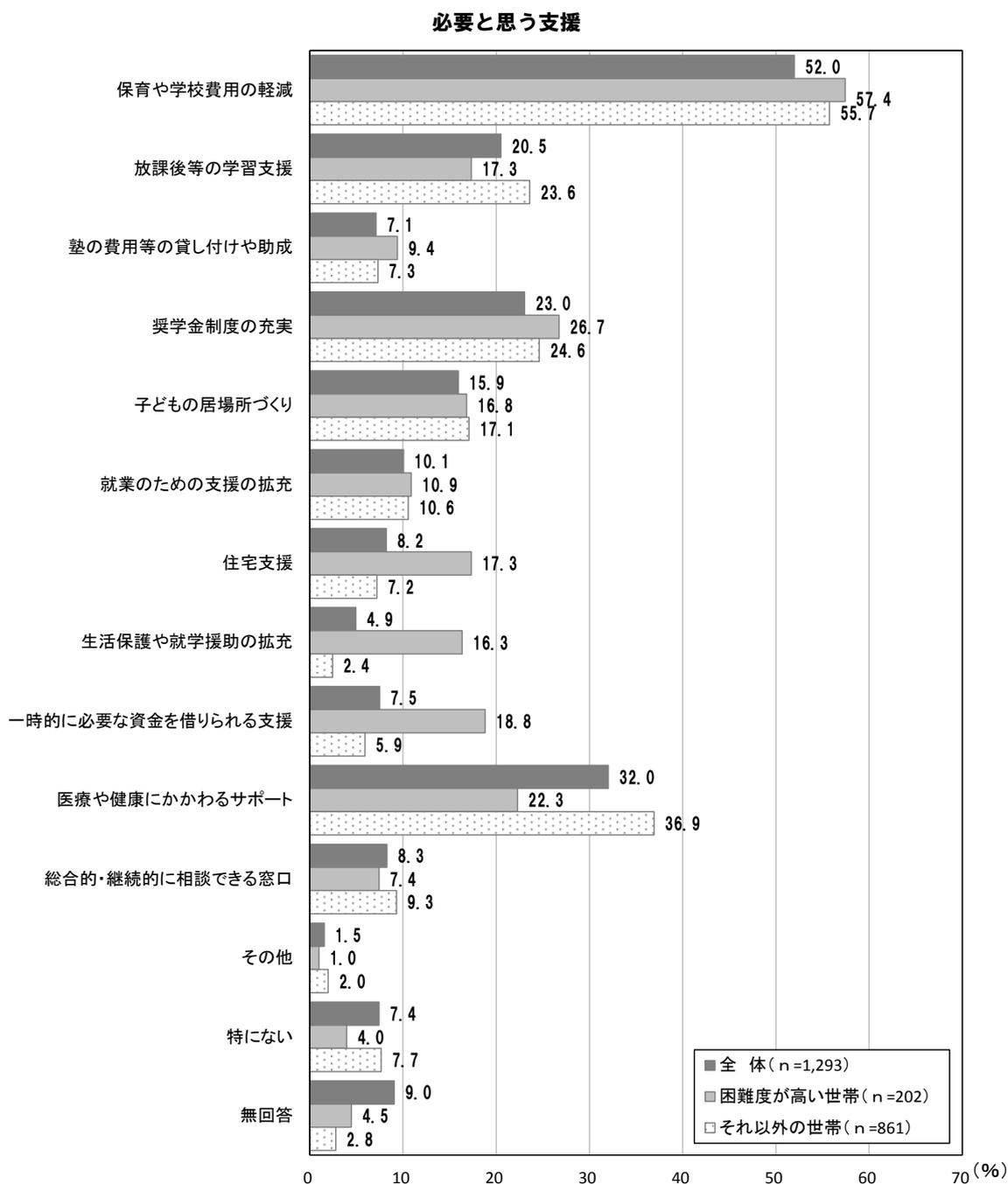
“子どものしつけや接し方”など一部の項目を除けば、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて心配・悩み事の割合が高くなっています。



(15) 必要と思う支援 (MA)

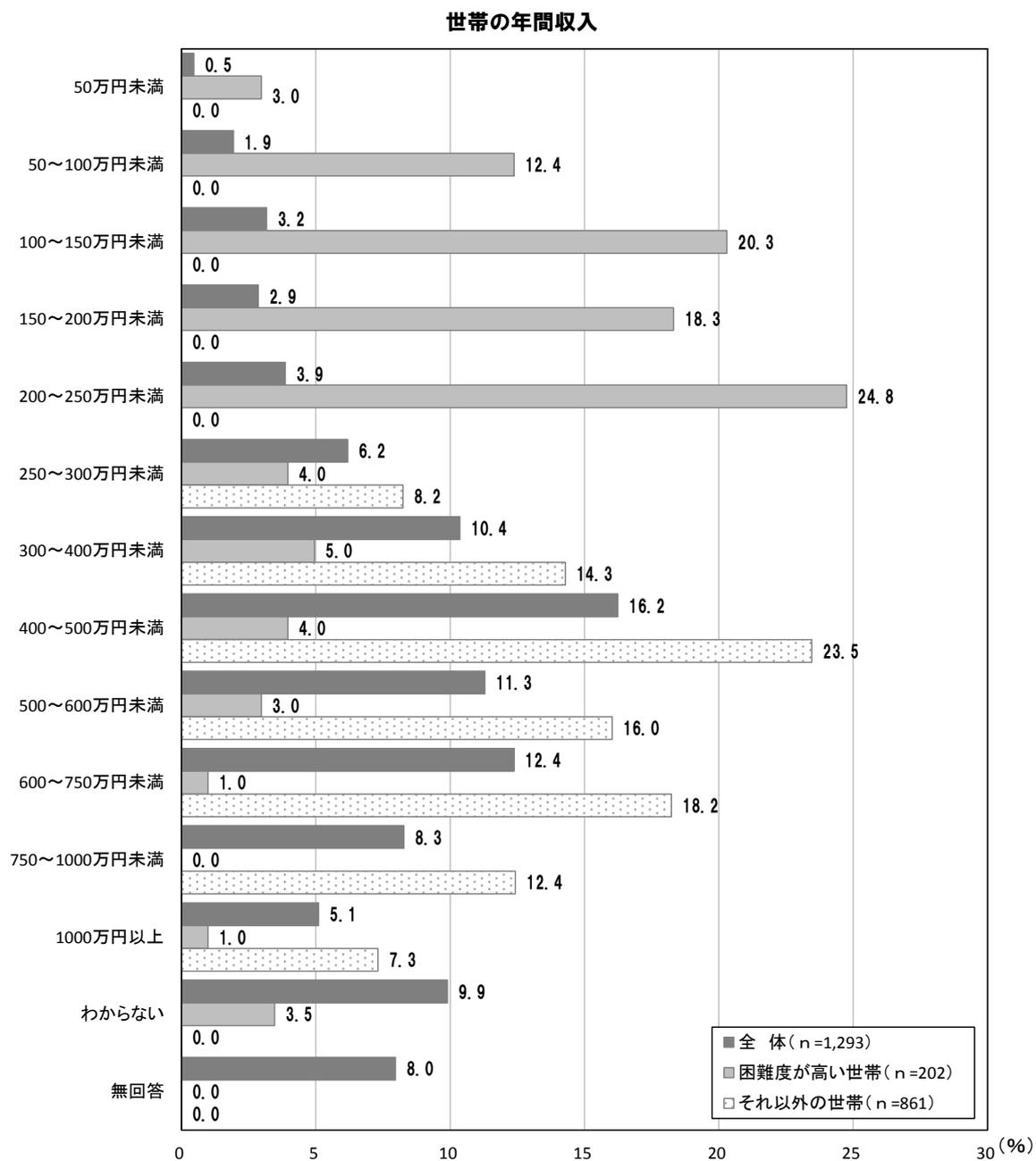
必要と思う支援については、“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに“保育や学校費用の軽減”が最も多く、それぞれ57.4%、55.7%となっています。

次いで多いのは、“それ以外の世帯”では“医療や健康にかかわるサポート”36.9%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では“奨学金制度の充実”26.7%となっています。



(16) 世帯の年間収入（SA）

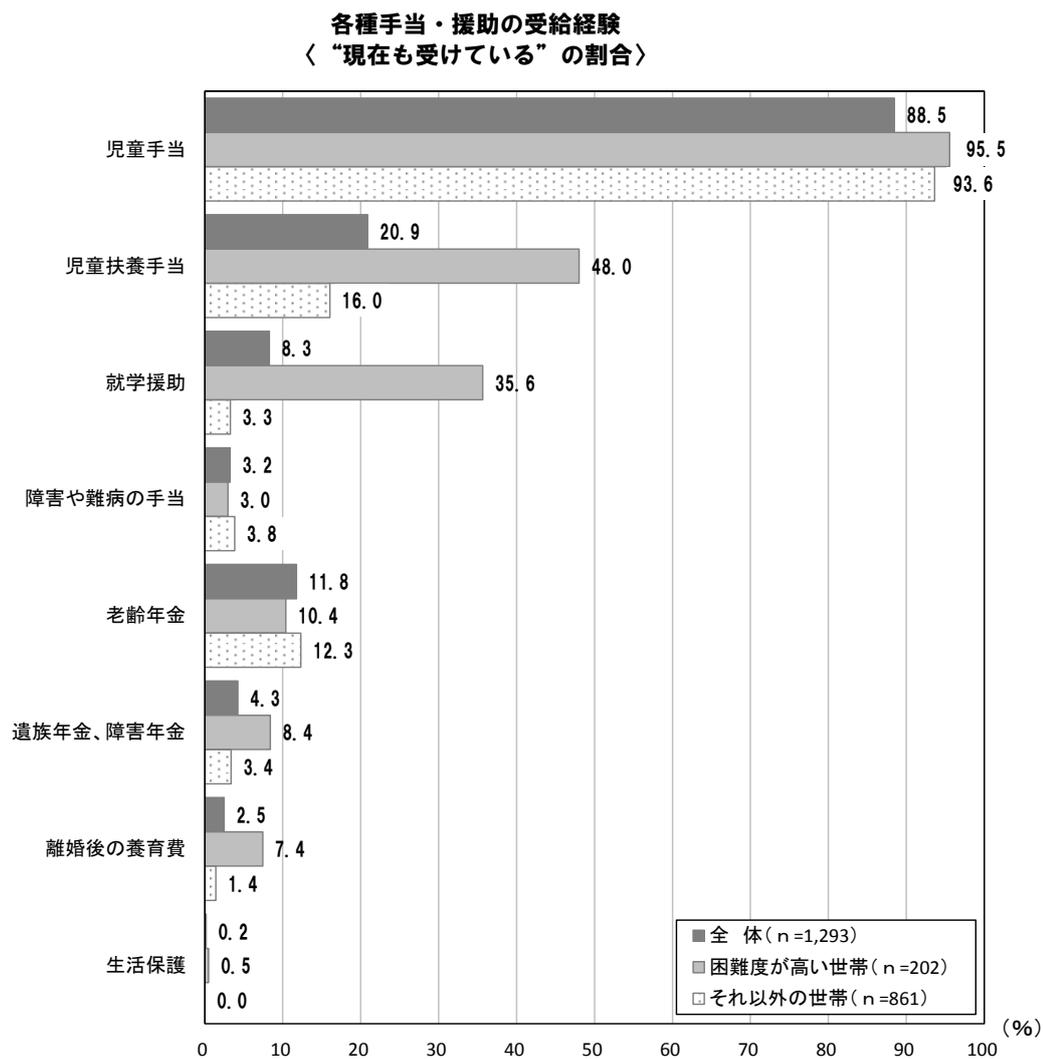
世帯の年間収入については、“それ以外の世帯”では“400～500万円未満”が最も多く23.5%、“困難度が高い世帯”では“200～250万円未満”が最も多く24.8%となっています。



(17) 各種手当・援助の受給経験（SA）

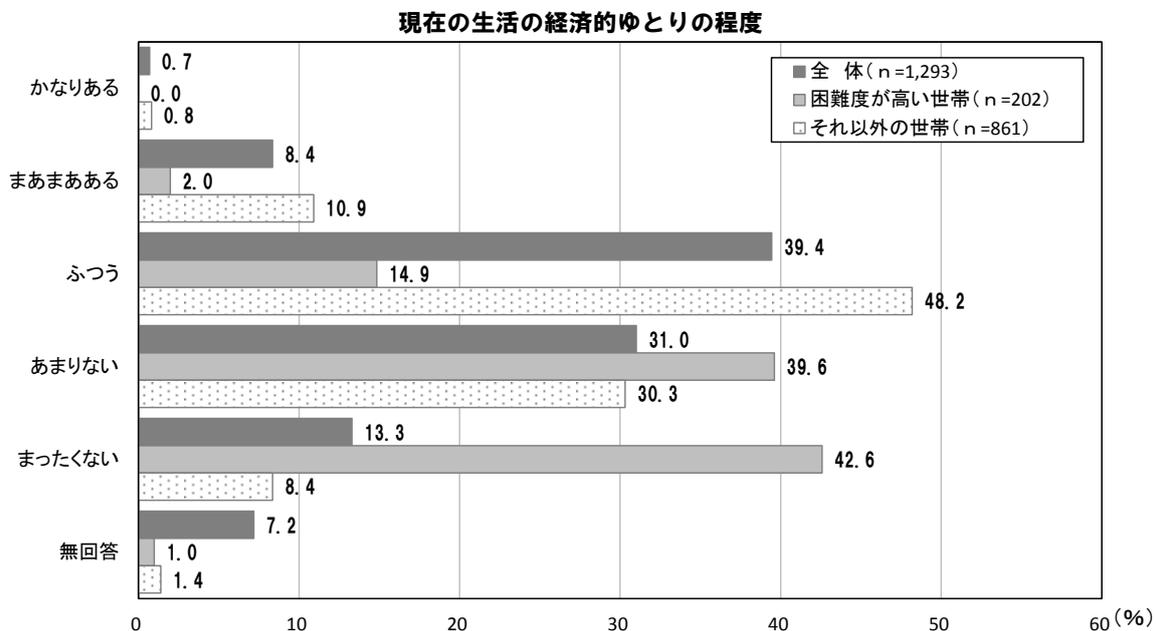
各種手当・援助の受給経験について“現在も受けている”割合をみると、“児童手当”が“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに最も多く、それぞれ95.5%、93.6%となっています。

“困難度が高い世帯”ではこの他に、“児童扶養手当”48.0%、“就学援助”35.6%が多くなっています。



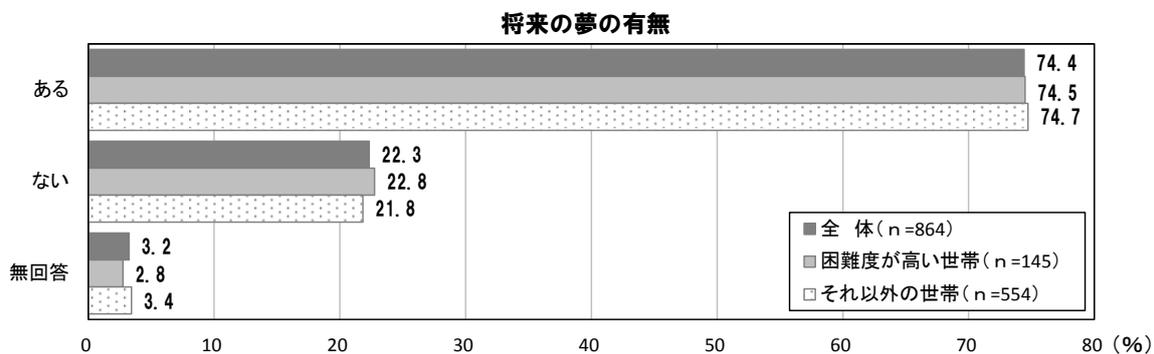
(18) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

現在の生活の経済的ゆとりの程度については、“それ以外の世帯”では“ふつう”が最も多く 48.2%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では“まったくない”が 42.6%で最も多くなっています。

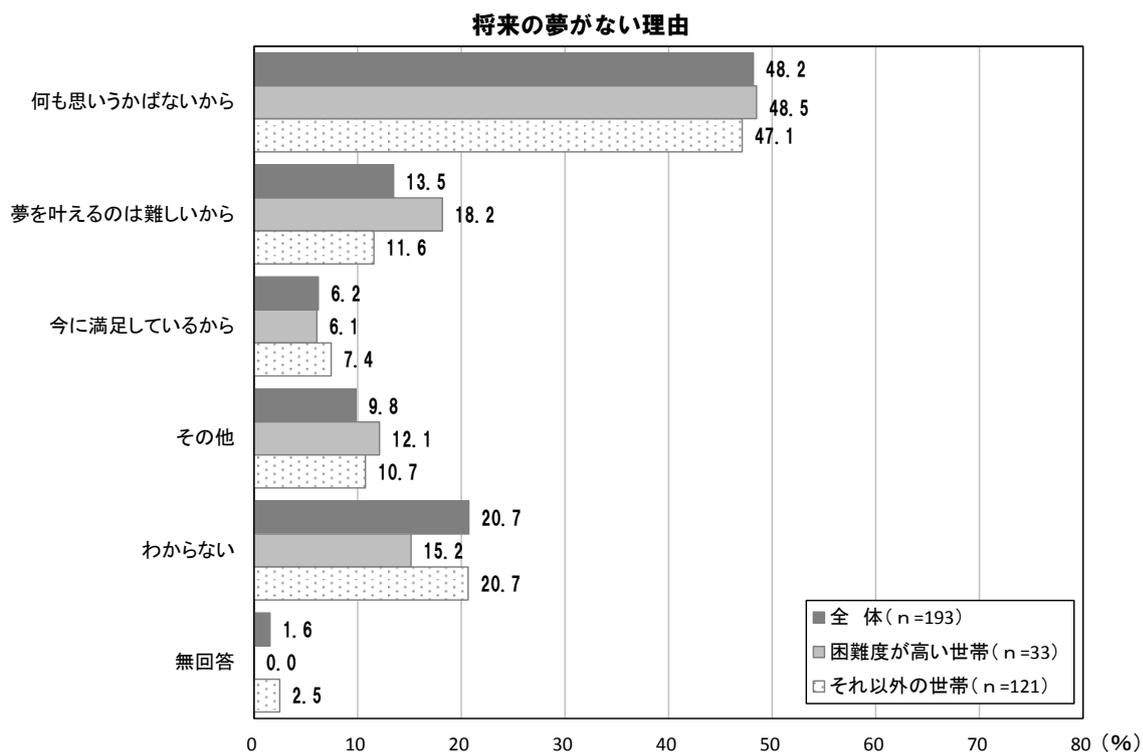


(19)【子ども向け】将来の夢の有無 (SA)

将来の夢については、“ある”が74.4%、“ない”が22.3%となっています。

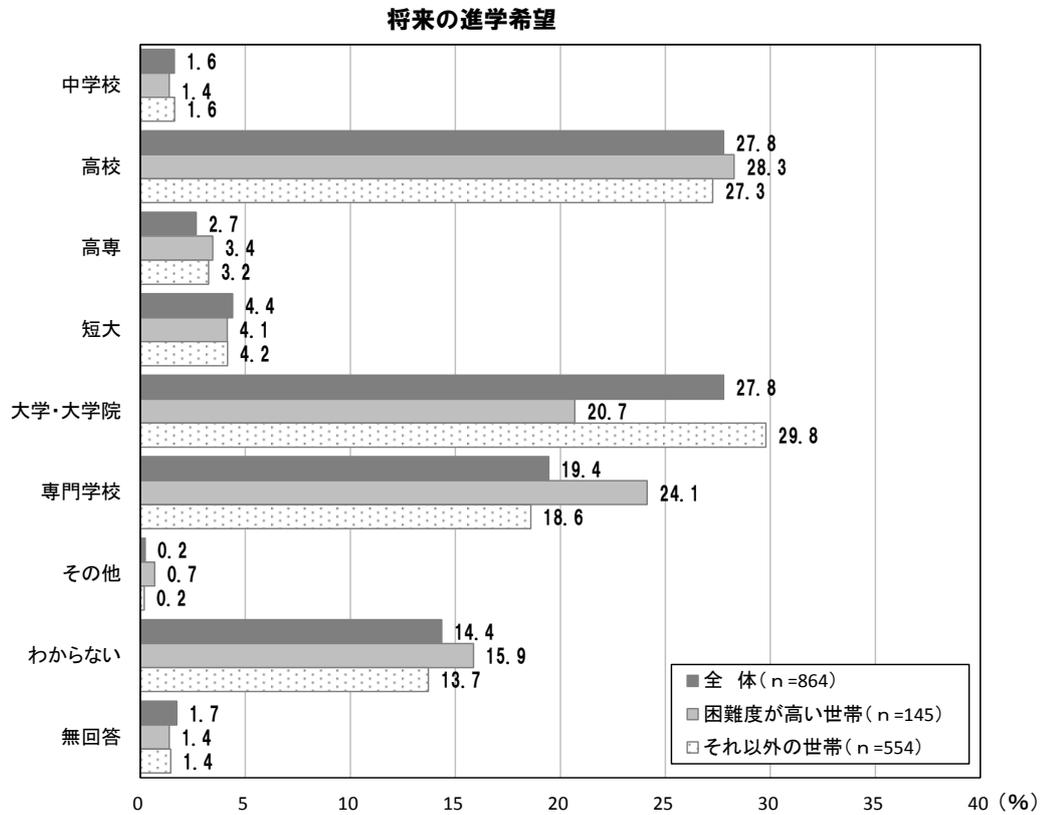


将来の夢がない理由 (SA) としては、“何も思いうかばないから”が48.2%で最も多くなっています。



(20)【子ども向け】将来の進学希望（SA）

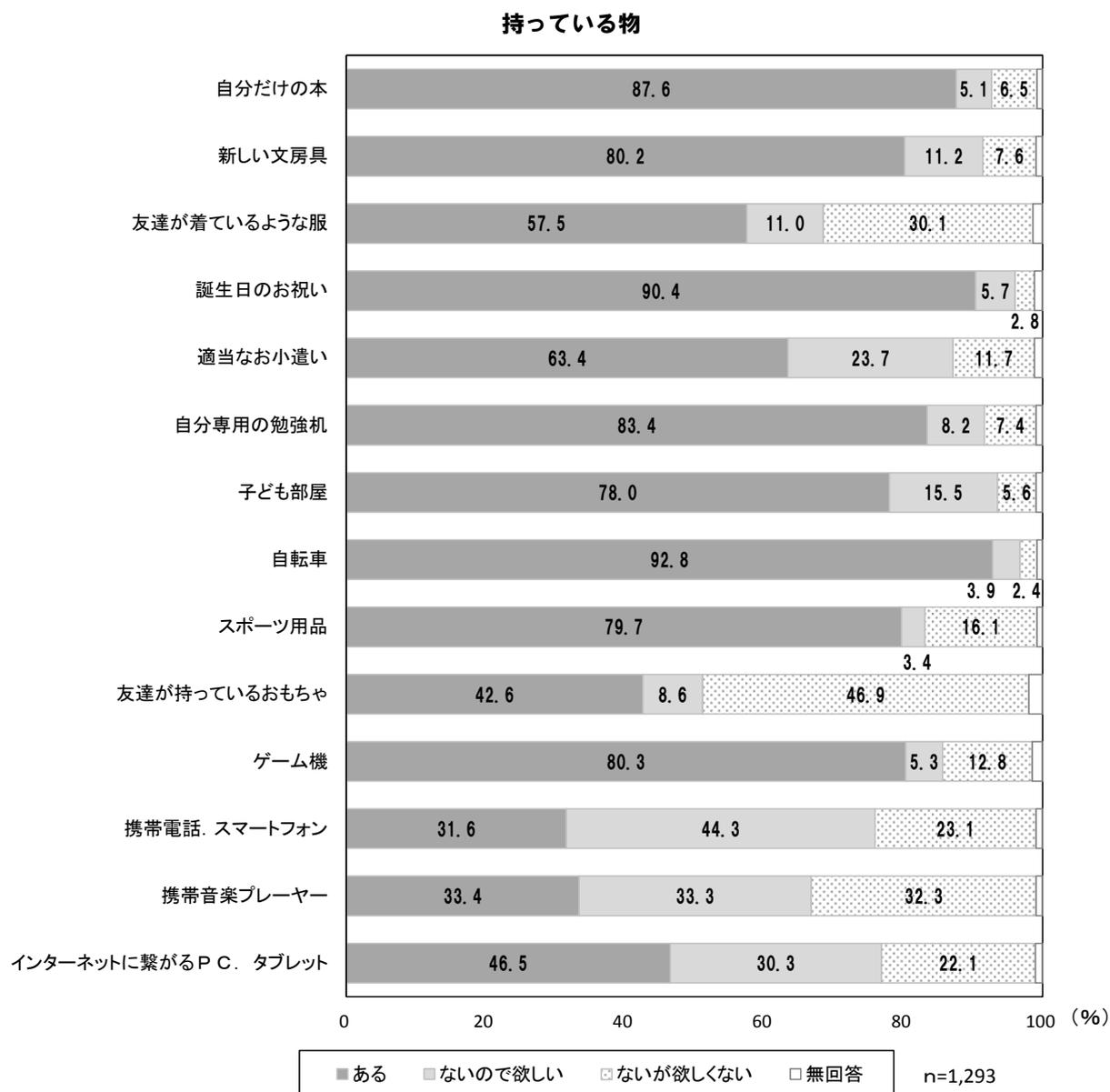
将来の進学希望について、“それ以外の世帯”では“大学・大学院”が29.8%で最も多く、次いで“高校”27.3%となっているのに対し、“困難度が高い世帯”では“高校”が28.3%出最も多く、次いで“専門学校”24.1%となっています。



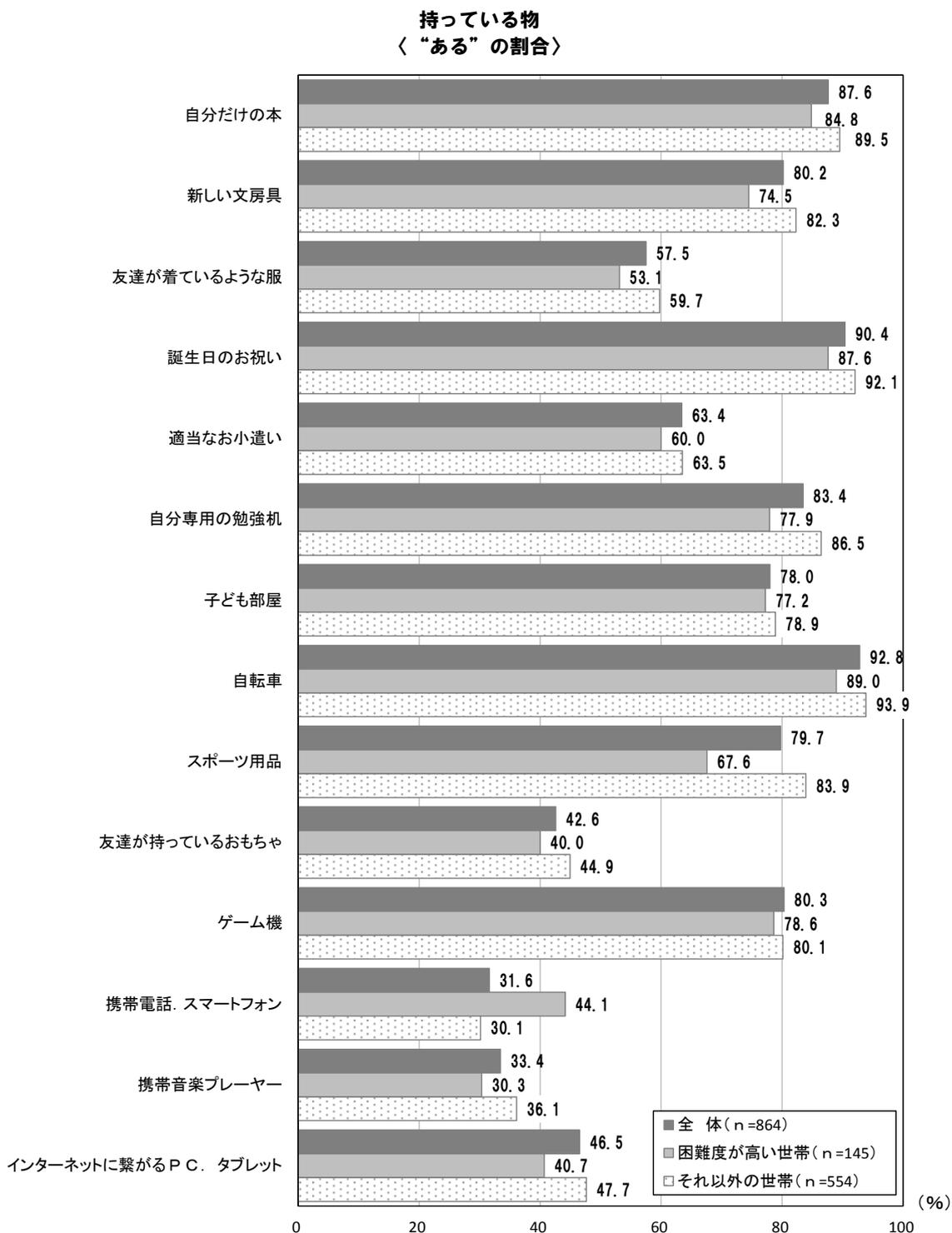
(21)【子ども向け】持っている物（SA）

持っている物について“ある”の割合が最も多いのは“自転車”で92.8%、次いで“誕生日のお祝い”90.4%となっています。

逆に少ないのは、“携帯電話・スマートフォン”31.6%、“携帯音楽プレーヤー”33.4%などとなっています。

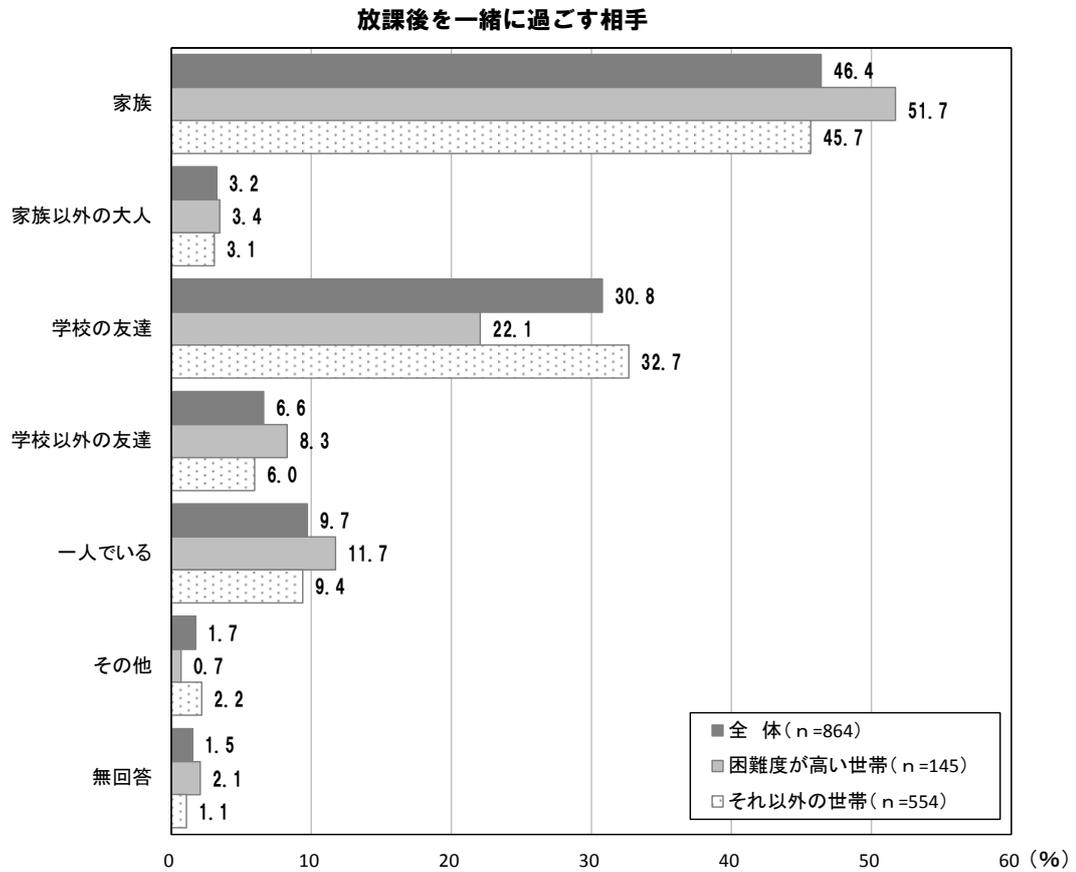


“ある”の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて低い状況ですが、“携帯電話・スマートフォン”については“それ以外の世帯”の30.1%に対して“困難度が高い世帯”では44.1%と高くなっています。



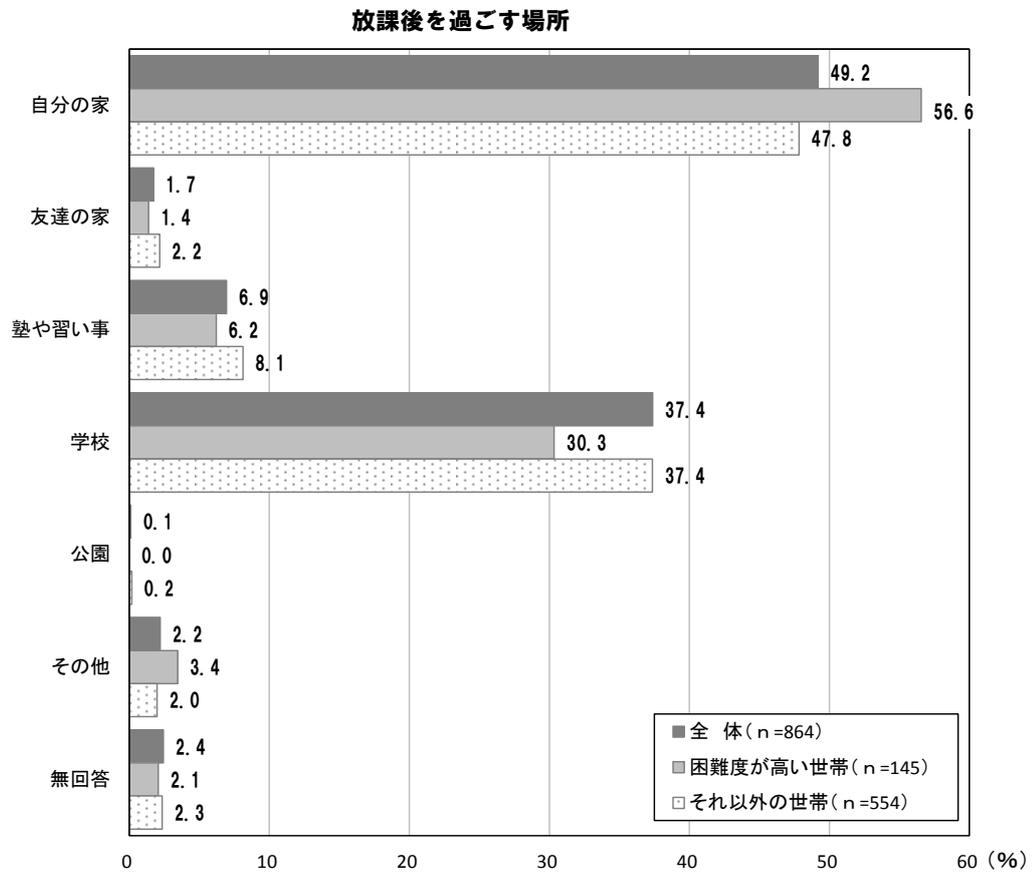
(22)【子ども向け】放課後を一緒に過ごす相手（SA）

放課後を一緒に過ごす相手については、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”では“家族”や“一人である”が多く、“学校の友人”が少ない状況です。



(23)【子ども向け】放課後を過ごす場所（SA）

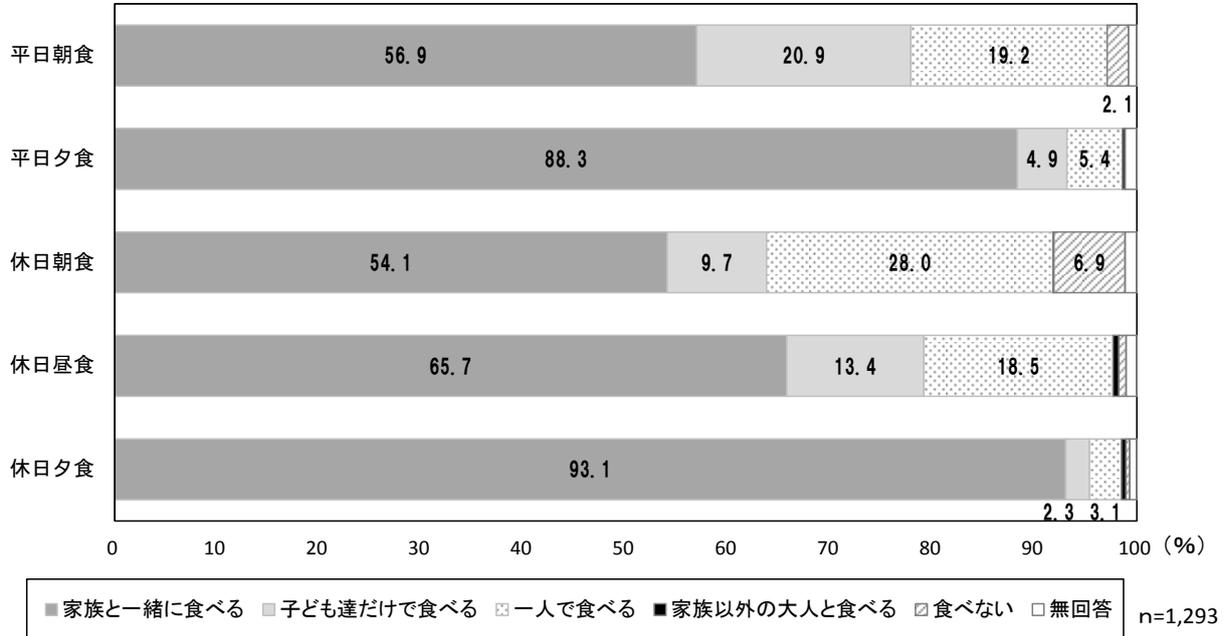
放課後を過ごす場所については、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”では“自分の家”が多く、“学校”が少ない状況です。



(24)【子ども向け】食事を一緒にする相手（SA）

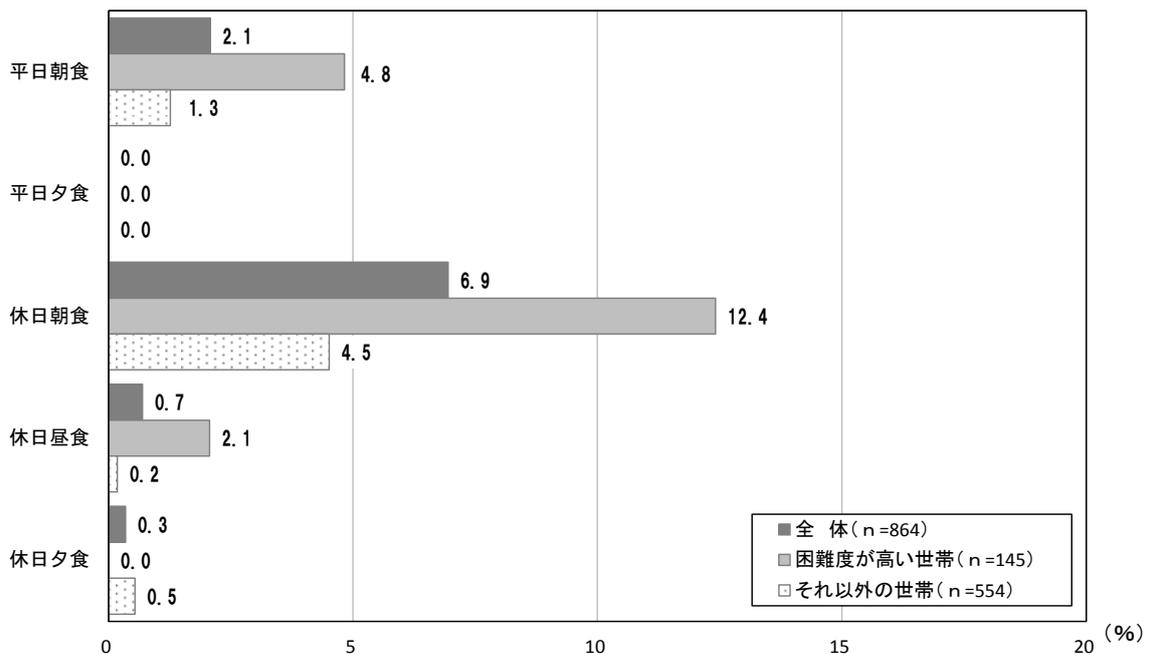
食事を一緒に食べる相手について“家族と一緒に食べる”が最も多い機会は“休日夕食”で93.1%、次いで“平日夕食”88.3%となっています。

食事を一緒にする相手



“食べない”割合に着目してみると、“困難度が高い世帯”では“休日朝食”が12.4%、“平日朝食”が4.8%となっています。

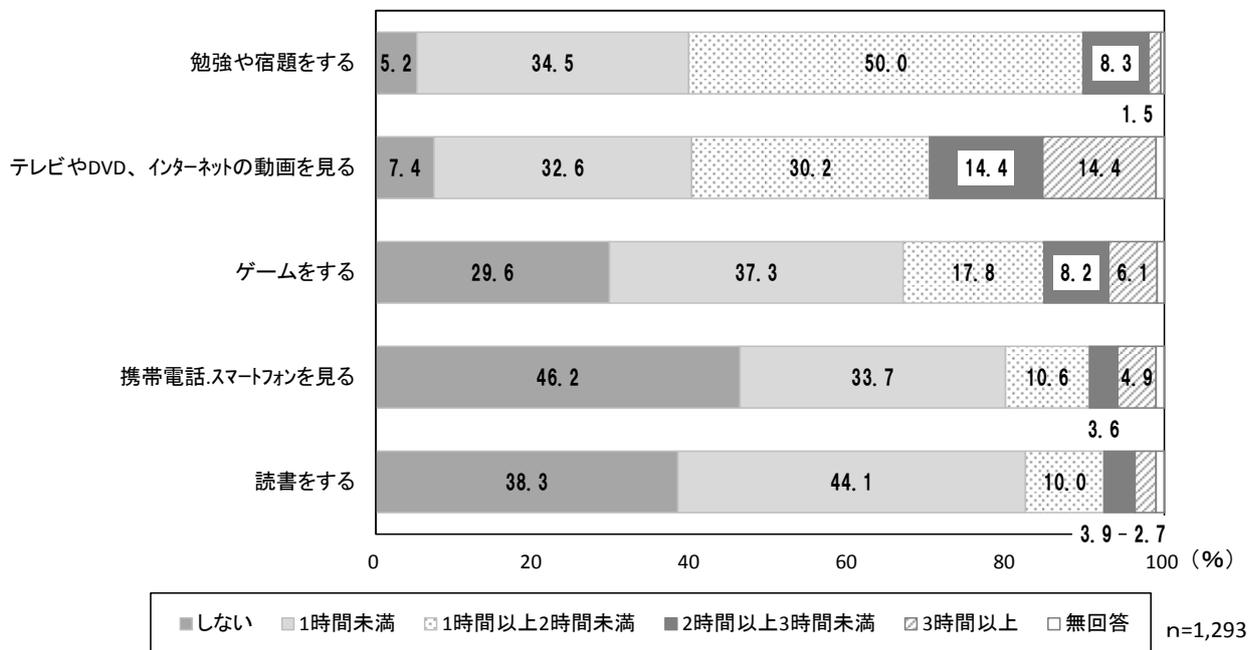
食事を一緒にする相手
〈“食べない”の割合〉



(25)【子ども向け】平日の時間の過ごし方（SA）

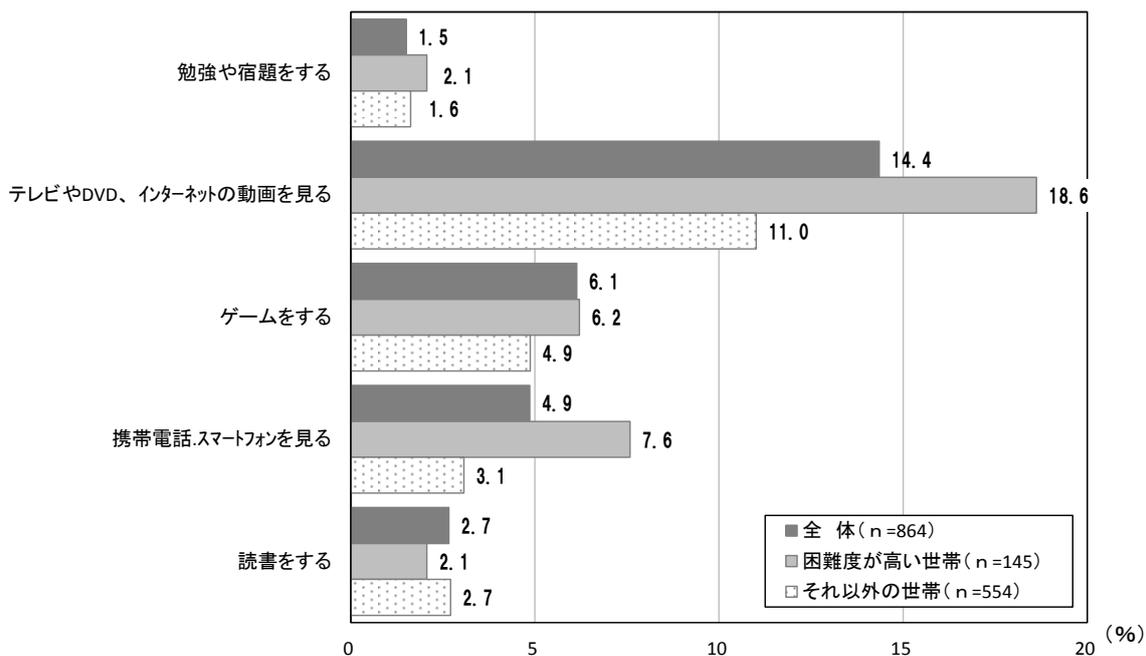
平日の時間の過ごし方として“しない”が最も多いのは“携帯電話・スマートフォンを見る”で46.2%、次いで“読書をする”38.3%となっています。

平日の時間の過ごし方



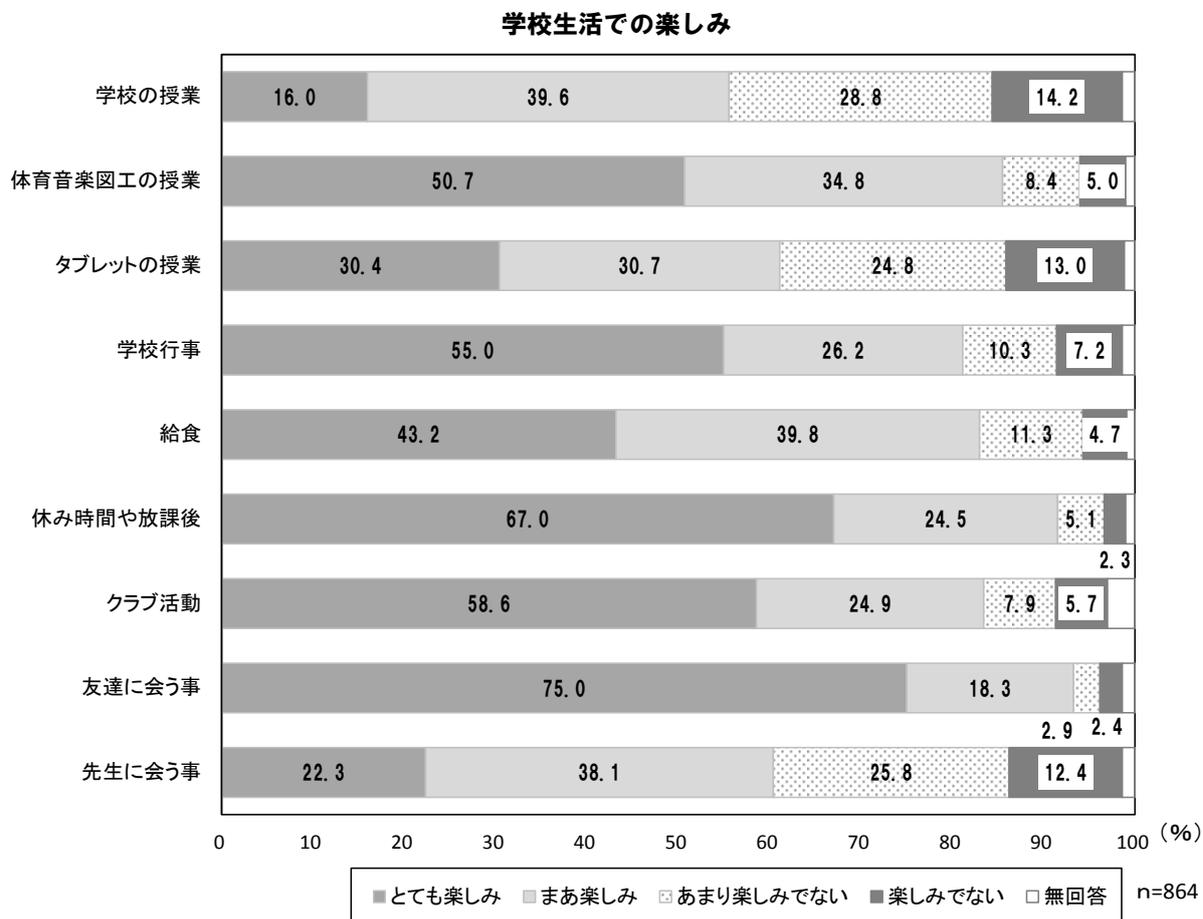
“3時間以上”に着目してみると、“困難度が高い世帯”では“テレビやDVD、インターネットを見る”18.6%、“携帯電話・スマートフォンを見る”7.6%など、“それ以外の世帯”に比べ多くなっています。

平日の時間の過ごし方
＜“3時間以上”の割合＞

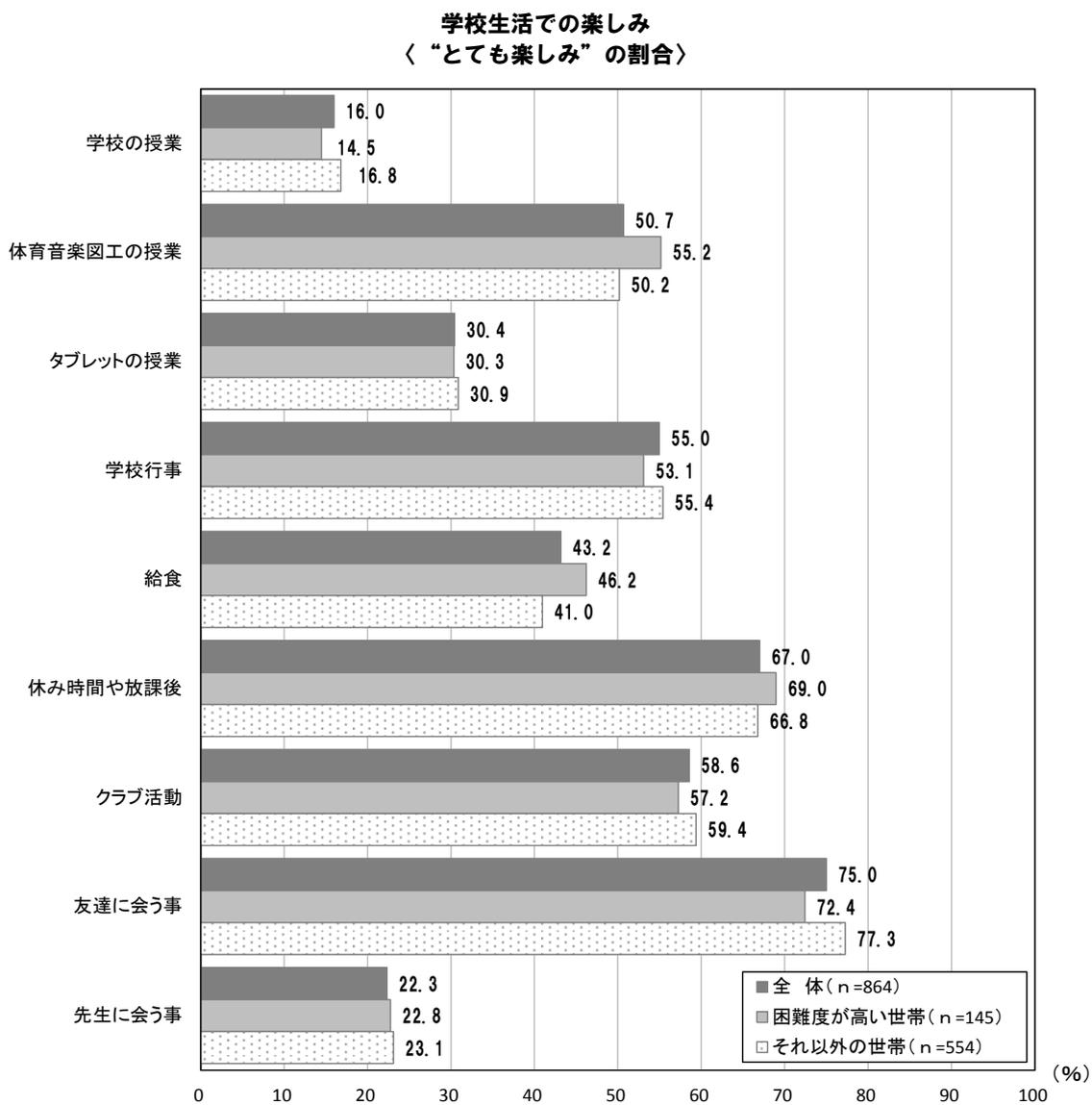


(26)【子ども向け】学校生活での楽しみ（SA）

学校生活での楽しみについて、“とても楽しみ”が最も多いのは“友達に会う事”で75.0%、次いで“休み時間や放課後”67.0%、“クラブ活動”58.6%となっています。

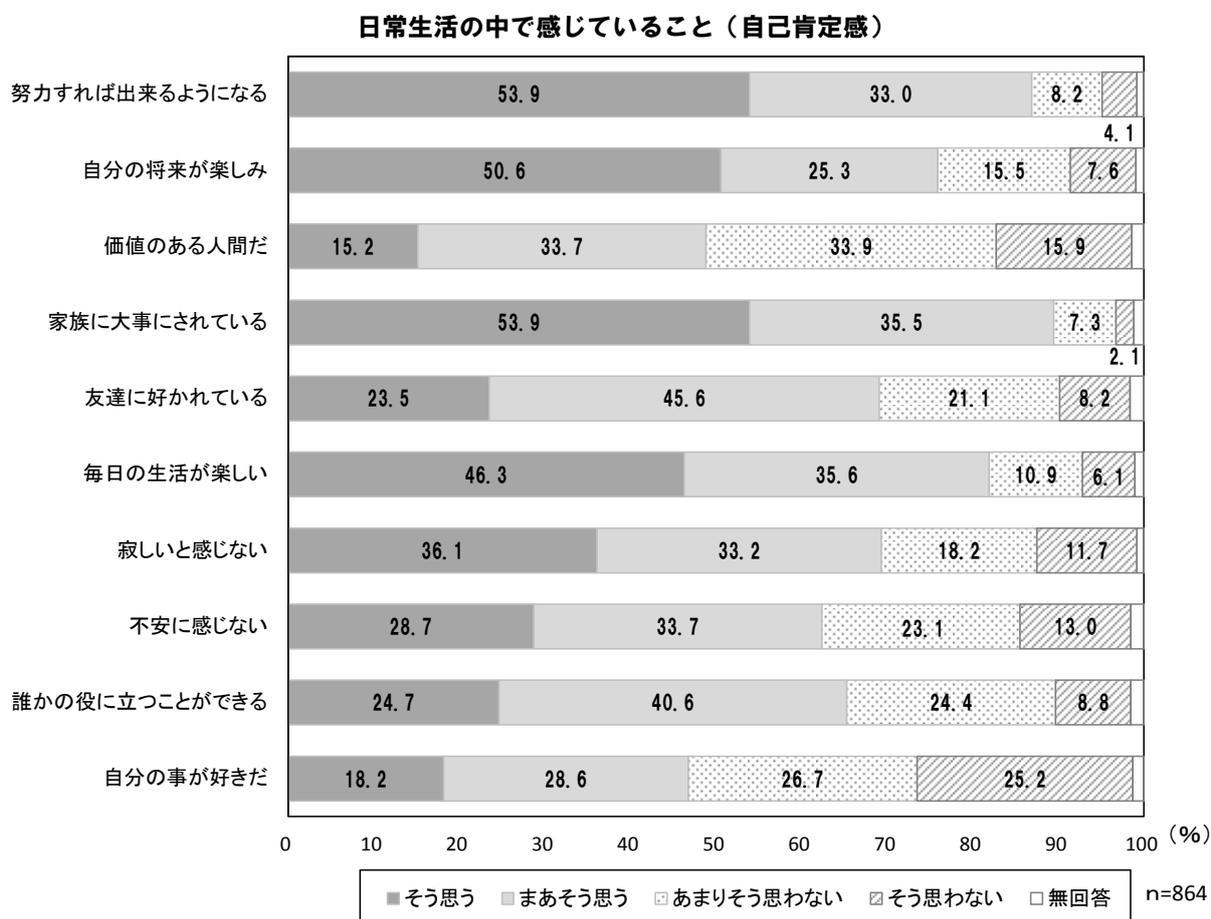


“とても楽しみ”の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”では“体育音楽図工の授業”、“給食”に関しては多く、“友達に会う事”に関しては少なくなっています。



(27)【子ども向け】日常生活の中で感じていること（SA）

日常生活の中で感じていることについて、“そう思う”という肯定的感想が多かったのは“努力すれば出来るようになる”53.9%、“家族に大事にされている”53.9%、“自分の将来が楽しみである”50.6%などとなっています。



“そう思う”の割合について“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて低くなっていますが、中でも“価値のある人間だ”、“家族に大事にされている”“友だちに好かれている”“毎日の生活が楽しい”“自分の事が好きだ”の5項目については“それ以外の世帯”よりも5ポイント以上低くなっています。

こうした中で、“寂しいとは思わない”についてだけは、わずか0.1ポイントではありますが“困難度が高い世帯”の方が“そう思う”割合が高い状況です。

日常生活の中で感じていること（自己肯定感）
 〈“そう思う”の割合〉

